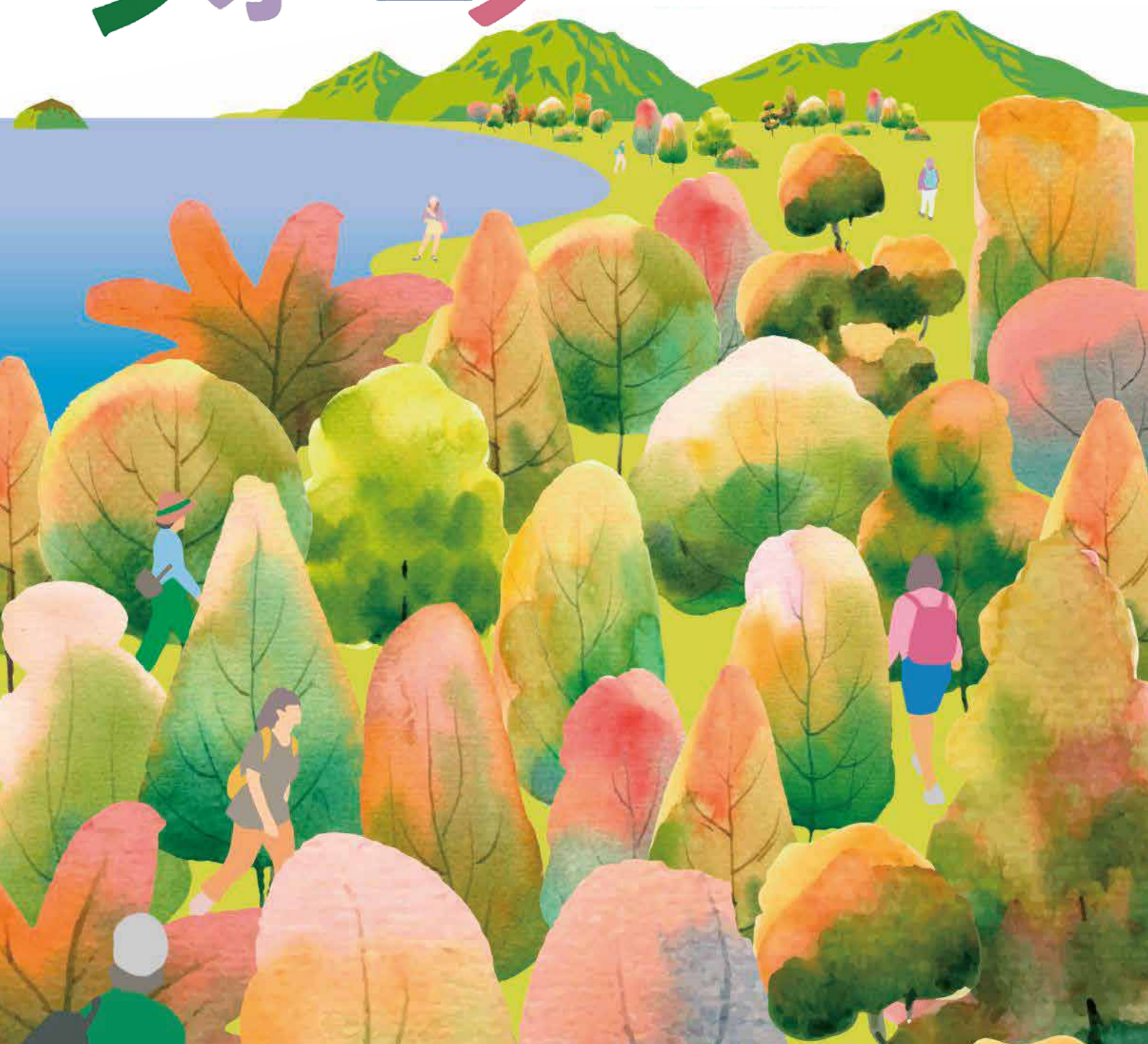


今こそ行こう! ジオパーク

第13回 日本ジオパーク全国大会 in 関東
GEOPARK
2023.10/27^金~29^日

主催：「第13回 日本ジオパーク全国大会 in 関東」大会実行委員会
共催：特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク
日本ジオパーク委員会



大会報告書

中央会場
銚子ジオパーク



サテライト会場
ジオパーク秩父



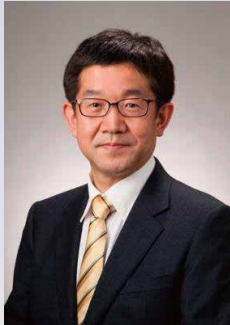
大会
ホームページ





目次

あいさつ	1
開催概要	3
大会プログラム	4
開催報告	6
[10月27日(金)、10月28日(土)、10月29日(日)]	
プレイベント報告	16
分科会報告	19
(市町村長セッション、ユースセッション含む)	
口頭発表	30
ポスター発表	32
プレポストジオツアー	34
アンケート集計	39
大会宣言	41
実行委員会名簿	42
参加者数	43



「第13回日本ジオパーク全国大会 in 関東」大会実行委員会

会長 越川 信 一(千葉県銚子市長)

第13回日本ジオパーク全国大会 in 関東は銚子ジオパークとジオパーク秩父の共同開催となりましたが、全国各地のジオパーク並びに本市内外から大変多くの皆様にご参加いただき、関係各位のご協力のもと、盛会のうちに無事終了することができました。ご尽力いただきました全ての皆様に厚くお礼申し上げます。

日本ジオパークネットワークは現在53地域が加盟する組織に成長し、ネットワーク最大の事業である全国大会の開催する役割を担うことが難しくなっています。関東ブロックでは、第12回大会終了後から、限られた時間の中で新たな全国大会のあり方を模索し、ブロックの共同開催という選択をしました。この実り多き全国大会を継続させていくためにも、どこの地域でも開催できる運営方法について、ネットワーク全体の課題として継続して議論していく必要があると認識いたしました。

第13回大会では、11の分科会、それに付随する口頭発表やポスター発表を開催しました。現在、私たちは、気候変動、自然災害などの世界規模で懸念されている課題に直面しています。このような社会の中で、変わりゆく自然環境や社会情勢に柔軟に対応し、時に自然の脅威を乗り越えながら、地域社会で豊かな暮らしを続けていくためにジオパークの果たす役割は大きく重要であります。大会テーマである「今こそ行こうジオパーク」を合言葉として、地域全体、そしてネットワークとして地球と共に生きていける持続可能な社会を築き続けることを目指しながら、多くの人々がジオパークを訪れ、学び、楽しみながら活動の担い手となることで推進に繋がれば幸いです。

また、本市の高等学校が「ユースセッション」に初めて参加しました。全国のユース世代の仲間と課題に対して意欲的に取り組み、交流を深め、ジオパーク活動の魅力を満喫する時間を過ごすことができ、新たな力が芽生える機会となり、今後の活動への期待が高まりました。

結びに、参加いただきました日本ジオパークネットワーク並びに地元住民の皆様、そして大会運営にご支援、ご協力を賜りました関係の皆様にご心より深く感謝を申し上げ、参加されました皆様のご活躍をご祈念いたします。

「第13回日本ジオパーク全国大会 in 関東」大会実行委員会

副会長 北堀 篤(埼玉県秩父市長)

第13回日本ジオパーク全国大会 in 関東にご来場並びにご協力いただいた皆様、大変ありがとうございます。今大会は全国大会が始まって以来の共同開催でしたが、メイン会場の銚子ジオパークのご指導はもちろん、関東ブロックのジオパークのご尽力と参加された全国の関係者の協力により、サテライトである秩父会場も無事盛大に終了することができました。

初めての試みである共同開催でしたが、準備段階から会議を重ね、日本ジオパークネットワークの趣旨のひとつである「ジオパークの結束」を図れたと同時にサテライト会場ではありましたが、全国規模でイベントを開催し続けていくことの厳しさも実感でき、今後の大会運営をより実りあるものにするために考えるよい経験となりました。

実施したプログラムの中では、秩父会場のオリジナルイベントとして林家たい平師匠の特別座談会を開催し、大盛況のうちに終了することができ多くの参加者から反響を得ています。特に、課題であった地元住民へのジオパークの普及については大きな成果がありました。

また、我がジオパークで企画・運営した分科会ではコンサルタントを招きジオパーク秩父の専門員だけではなく旅行会社の方やジオパーク認定審査委員など内外で活躍する方々の事例紹介をもとに、ジオパークの理念がサステナブルツーリズムに対してどのように貢献できるのか、目指すには課題は何かなどを参加者に議論いただきました。これを機会にジオパークでサステナブルツーリズムを軸としたツアーを企画する流れが生まれたら嬉しく思います。

最後となりますが、全国から秩父会場にご参加いただいた皆様、大会運営にご尽力いただきました皆様に感謝申し上げます。今後もジオパーク活動が益々発展していくことをご祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。



大会テーマ



It's time to travel to
GEOPARKS!

- ジオパークでは、地域の遺産から地球の過去を知り、今を捉え、未来を想像して現在の私たちが取るべき行動を考え、活動しています。その活動の経験や知見を共有する全国のジオパークがネットワークとしてつながり、知恵を出し合い持続可能な社会の実現を目指しています。
- 「第13回日本ジオパーク全国大会in関東」では首都圏に近い関東ブロックのジオパークとジオパークを目指す地域が共同でジオパーク活動の意義を広く伝え、ジオパークブランドの向上に貢献するとともに、日本ジオパークネットワークの情報交換や意見交換などの機会を作り、ジオパークの発展につなげることを目的に大会を開催します。

大会実行委員会メンバー

日本ジオパークネットワーク関東ブロック
正会員・準会員



開催概要



大会名称 第13回日本ジオパーク全国大会in関東

テーマ 「今こそ行こう!ジオパーク」

実施内容

- プレイベント
本大会に先駆け、関東ブロックのジオパークが首都圏の住民に向けてジオパーク活動の意義を広めるため、ジオツアーや講演会、展示会などの事業を実施した。プレイベントでの課題や取組事例は、本大会の分科会等で共有した。
- 本大会
大会の目的を達成するため、各ジオパークの課題や取組事例を共有し、テーマごとに専門的な討議等を行う分科会や口頭発表、ポスター発表等を実施した。また、基調講演や基調提言は一般公開(無料)のプログラムとし、ジオパーク活動の意義を広く伝えられることを目指した。

会期 令和5年10月27日(金)～29日(日)3日間

会場

- 中央会場
銚子ジオパーク:千葉科学大学マリーナキャンパス
(千葉県銚子市潮見町15-8)
- サテライト会場
ジオパーク秩父:秩父宮記念市民会館(埼玉県秩父市熊木町8-15)

主催 「第13回日本ジオパーク全国大会in関東」大会実行委員会
正会員:伊豆大島・下仁田・秩父・箱根・銚子・筑波山地域・浅間山北麓
準会員:古関東深海盆・那須烏山

共催 特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク、日本ジオパーク委員会

後援 銚子市、銚子市教育委員会

協賛 応用地質株式会社／千葉科学大学／銚子電気鉄道株式会社／株式会社ジオ・ラボ／イオン環境財団／北海道地函株式会社／銚子ジオパーク市民の会／千葉銚子オフショアウインド合同会社／ヤマサ醤油株式会社／ヒゲタ醤油株式会社／銚子商工会議所／一般社団法人銚子市観光協会／箱根DMO(一般財団法人箱根町観光協会)／関東天然瓦斯開発株式会社／NPO法人日本地質汚染審査機構／株式会社ウインド・パワー・グループ

事務局 「第13回日本ジオパーク全国大会in関東」大会実行委員会

銚子会場事務局 銚子ジオパーク推進協議会
TEL 0479(21)6667
E-mail choshigeopark@city.choshi.lg.jp
秩父会場事務局 秩父まるごとジオパーク推進協議会
TEL 0494(26)5511
E-mail geo@chichibu-omotenashi.com

大会プログラム



10月27日 (金)

銚子ジオパーク

プレジオツアー①-1
プレジオツアー①-2

銚子市役所

JGC事前相談会
日本ジオパーク申請希望地域
【1階市民ホール】
ユネスコ世界ジオパーク国内推薦申請希望地域
【銚子市勤労コミュニティセンター2階ホール】
JGN運営会議【1階市民ホール】
JGN全地域事務局長会議
【1階市民ホール】

時間
10/26より~17:10 10/26より~13:10 9:45~16:00 10/26より~16:00
10:00~12:00
.....13:30-15:30..... 16:00-18:00
17:30-20:30 18:30-20:00
8:00- 9:00-10:00 10:15-11:15 11:15-11:45
13:00-16:00

ジオパーク秩父

プレジオツアー②-1
プレジオツアー②-2

秩父宮記念市民会館

JGN運営会議【けやきフォーラムA,B】

受付・案内等【1階エントランス】
特別座談会「ジオパーク秩父と私」
【大ホールフォレストA】
登壇者：林家たい平氏
(落語家・秩父市観光大使)

10月28日 (土)

**千葉科学大学
マリーナキャンパス**

受付
開会式【看護学部棟2階 6201】

基調講演「チバニアンと地質遺産」
【看護学部棟2階6201】
講師：岡田誠氏（茨城大学理学部長／一般社団法人日本地質学会会長）

**基調提言
「ジオパークは誰のためのもの？」**
【看護学部棟2階6201】
コーディネーター：齊藤清一氏
(観光地域づくり法人／一般社団法人糸魚川市観光協会事務局長)

分科会

- ①災害（防災・減災）をどう伝えるのか
【講義棟2階2201】
- ②ジオパークから考える川・海の
ゴミ問題【講義棟2階2208】
- ③「ジオパークって何をやる活動？」
初歩から考える地質物品の販売問題
【講義棟2階2203】
- ④ガイド研修会
【看護学部棟2階6201】
- ⑤市町村長セッション
「ジオパークは誰のためのもの？」
【銚子マリーナセンターハウス】
- ⑥ユースセッション「ユース世代で
考える地域と地球の未来」
【講義棟2階2206】

秩父宮記念市民会館

受付・案内等【1階エントランス】
オンライン配信
オンライン配信
オンライン配信

分科会

- ⑦ジオパークから発信する
サステナブルツーリズムの今
【けやきフォーラムC】
- ⑧つながりを取り戻す-フェノロジー
カレンダーで地域風土を再発見-
【けやきフォーラムD】
- ⑨各地の事例から考える
ジオパーク教育・学習の意義とは？
【けやきフォーラムA,B】
- ⑩多様性をどうジオパークで活かす？
UDで実現させたいサステナビリティ
【会議室1】
- ⑪ジオ・エコ・ヒト
-なぜジオパークで生態学？-
【会議室2】

**千葉科学大学
マリーナキャンパス**

ポスター発表【厚生棟】

開会式・基調講演・基調提言・オンライン視聴室【講義棟2階2208】

休憩室（wifi有り）【講義棟1階2103】
休憩室（wifi有り・企画展）
【講義棟2階2207】

お弁当配付【看護学部棟1階受付】

銚子マリーナ特設会場

屏風ヶ浦ジオマルシェ

絶景の宿犬吠埼ホテル

交流会

時間
10:00-16:00
9:00-11:45
8:00-16:00
10:00-16:00
11:30-13:00 11:30-12:45
10:00-15:00
17:30-19:30
8:30-10:30
9:00-11:45 10:45-11:45
9:00-14:00
11:00- 11:30-13:00 11:30-12:4513:00-14:00.....
10:00-15:00

秩父宮記念市民会館

ポスター発表
【秩父市役所本庁舎3階庁議室、会議室、廊下】

交流広場【2階ホワイエ】

お弁当配付【1階エントランス】
昼食会場【けやきフォーラムA,B,C,D】

秩父神社参集殿

交流会

10月29日（日）

**千葉科学大学
マリーナキャンパス**

口頭発表 ※一般の方も参加できます
災害【講義棟2階2202】
保全・めぐみ【講義棟2階2203】

その他1【講義棟2階2204】

その他2【講義棟2階2206】

小中高生の部【講義棟2階2208】
ガイド【講義棟1階2103】

ポスター発表【厚生棟】
コアタイム ※一般の方も参加できます

お弁当配付【看護学部棟1階受付】

閉会式【看護学部棟2階6201】

銚子マリーナ特設会場

屏風ヶ浦ジオマルシェ

秩父宮記念市民会館

口頭発表 ※一般の方も参加できます
ツーリズム【けやきフォーラムA】
フェノロジーカレンダー+小中高生
【けやきフォーラムB】
ユニバーサルデザイン+その他
【けやきフォーラムC】
教育+ツーリズム
【けやきフォーラムD】
口頭発表受付・控室【会議室1】

ポスター発表【秩父市役所本庁舎3階
庁議室、会議室、廊下】
コアタイム ※一般の方も参加できます

交流広場【2階ホワイエ】

お弁当配付【1階エントランス】
昼食会場【けやきフォーラムA,B,C,D】
オンライン配信

10月30日（月）

伊豆大島GP

ポストジオツアー
①-1&①-2
10/29 21:00-10/31

箱根GP

ポストジオツアー②
10/30 9:45-10/31

筑波山地域GP

ポストジオツアー③
10/29 14:45-10/30

古関東深海盆

ポストジオツアー④
10/30 9:00-

10月31日（火）

10月27日(金)

JGC事前相談会

日本ジオパーク申請希望の3地域(三好、大雪山カムイミンタラ、喜界島)から14名、傍聴1地域(蔵王)から2名、ユネスコ世界ジオパーク国内推薦申請希望の6地域(霧島、桜島・錦江湾、南紀熊野、Mine秋吉台、下北、鳥海山・飛島)から18名が参加し、JGN事務局の進行のもと、日本ジオパーク申請希望地域に対しては中田節也JGC委員長、国内推薦申請希望地域に対しては大野希一JGC委員が説明を行った。質疑応答の後、日本ジオパーク申請希望の3地域がポスター発表で概要や準備状況を説明し、JGC委員や参加者から出された質問に応えた。



JGN運営会議

各地域の運営会議委員等が銚子会場100名、秩父会場(オンライン中継)16名の総勢116名が参加した。

全体の共有事項として、日本ジオツーリズム協会からのオンラインジオツアーの報告とお知らせ、JGN事務局から日本ジオパーク周遊アプリ「ジオパークな旅」のダウンロード数や利用状況などについての報告がなされた。

また、ネットワーク強化によって、問題解決・状況改善をめざすために、日本ジオパークネットワーク中期計画を踏まえて『自分の地域』『自分の“ジオパーク”との関わり方』から考えるというテーマと『自分も相手もwin-winになるために』をテーマとしてグループワークを行ない、活発に意見が交わされた。

さらに、JGNオンラインジャーナルについて編集委員長からの説明と、第14回日本ジオパーク全国大会下北大会について下北ジオパークからの紹介がなされた。



JGN全地域事務局長会議

53地域中52地域(事務局長44名、代理出席8名、随行者4名)の参加があり、古川理事長、桂副理事長、米田顧問、中田JGC委員長も出席されるなか、JGN事業進捗状況、2023年度JGC審査状況、第10回ユネスコ世界ジオパーク国際会議、第14回日本ジオパーク全国大会下北大会及び今後の予定等について事務局から報告があった。

また、JGN活動状況調査の設問の内容やJGN中期計画の次年度の具体的な展開などについて協議が行われ、参加者からの質疑応答や意見が交わされた。



林家たい平師匠 特別座談会

秩父会場のキックオフイベントとして10月27日(金)に開催。長寿番組『笑点』の大喜利メンバーであり、秩父市の観光大使でもある林家たい平氏が登壇した。

「ジオパーク秩父と私」というテーマでたい平氏が育った秩父地域の思い出や暮らしにまつわる“ジオ”のトークを繰り広げた。さらに、秩父まるごとジオパーク推進協議会の事務局メンバー2名も途中からトークに参加し、バックグラウンドの異なる3者3様のトークを楽しんだ。終盤の観客参加型〇×クイズでは観客との掛け合いを楽しみながら終始笑いに包まれ、最後の「林家たい平師匠は秩父を愛しているか」というクイズに全員が〇に手を挙げて会場は温かな雰囲気でも終了した。



10月28日(土)



開会式

主催者あいさつ



実行委員会会長
銚子ジオパーク
推進協議会会長
銚子市長
越川 信一



実行委員会副会長
秩父まごどジオパー
ク推進協議会会長
秩父市長
北堀 篤

共催者あいさつ



日本ジオパーク
ネットワーク
理事長
島原半島ジオパーク
協議会会長
島原市長
古川 隆三郎



日本ジオパーク
ネットワーク
委員会委員長
東京大学名誉教授
防災科学技術研究所
火山研究推進センター長
中田 節也

来賓者あいさつ(歓迎ビデオメッセージ)



ジオパークによる地域活性化推進議員連盟
会長 衆議院議員 **石破 茂 氏**



千葉県知事 **熊谷 俊人 氏**



埼玉県知事 **大野 元裕 氏**

日本ジオパークネットワーク表彰

● 萩ジオパーク推進協議会

萩ジオパーク推進協議会は、バラエティに富んだ講座やツアーを実施し、ジオパークの理念のもと、地域の自然と人の暮らしのつながりを伝えることができる地域住民の増加をもたらすなど、先進的な活動を実践されてきた。それらの活動はグッドプラクティスとして評価され、広く共有されるべき優れた活動であることから、その功績が認められ、事務局長による取組事例紹介の後、表彰状が授与された。



● 島根県立隠岐高等学校

島根県立隠岐高等学校は、ジオパークを活用したPBL学習とSDGs活動を組み合わせて実施し、地域版のカードゲームを作成し、学びを地域に広めるなどジオパークを活用して地域を見直し、考え、行動する人づくりに取り組まれている。この取り組みは全国のジオパークにおいてジオパークを活用した教育の模範となりうることから、その功績が認められ、表彰状が授与された。



● 株式会社海士

株式会社海士は、隠岐ユネスコ世界ジオパークの滞在機能とビジターセンター機能を兼ねた泊まれる拠点施設Entôを運営し、全世界からの来島者や島民が新たな世界と繋がりジオパークを楽しめる空間と機会を提供しジオパークの価値向上に大きく貢献していることから、その功績が認められ、表彰状が授与された。



● 白山手取川ジオパーク学習支援員

白山手取川ジオパーク学習支援員は、長年にわたり白山手取川のジオパーク遠足での解説や出前授業などに取り組まれジオパークに対する知識の向上や郷土愛の涵養に大いに貢献された。この取り組みは、全国のジオパークにおいてジオパークを活用した教育の模範となりうることから、その功績が認められ、表彰状が授与された。



● 一般社団法人ノヤマカンパニー

一般社団法人ノヤマカンパニーは、四国西予ジオパークのフリーマガジン『だいちのめ』を制作発行し、暮らしと大地の関りについて理解を深めジオパーク活動に関心の薄かった事業者や地域の方と新たな結びつきを生み出しており、その一連の取り組みはジオパークネットワーク全体に還元できるものであることから、その功績が認められ、表彰状が授与された。ノヤマカンパニー代表の加藤氏は秩父会場に出席していたため、銚子会場では代理として四国西予ジオパーク推進協議会副会長の谷本英樹氏が登壇し、加藤氏は秩父会場にて授与となった。



基調講演



「チバニアンと地質遺産」

講師：岡田 誠 氏

(茨城大学理学部長／一般社団法人日本地質学会会長)

千葉セクションGSSP(国際境界模式地層断面とそのポイント)提案チームの代表として活躍された講師から地質遺産から地球を知り、活用することの重要性や「チバニアン」の模式地の価値や保全の意義、承認がもたらしたものについて講演していただいた。地質学者にとって地球上のどんな地層も、地球の歴史を記録している地質遺産だが、国際的価値があっても一般の人が理解するのは難しいという課題にも話が及んだ。

基調提言



「ジオパークは誰のためのもの？」

講師：齊藤 清一 氏

(観光地域づくり法人／一般社団法人糸魚川市観光協会事務局長)

ジオパークは何を目指すプログラムで、自分たちは何を達成したいのかを常に繰り返し、地域全体で共有することで発展し、成果をネットワーク全体で共有し合うことで、より大きな発展につながることを期待できるだろうという提言をいただいた。

分科会①～⑪

銚子会場	タイトル	場所
分科会①	災害(防災・減災)をどう伝えるか	講義棟2階 2201
分科会②	ジオパークから考える川・海のゴミ問題	講義棟2階 2208
分科会③	「ジオパークって何をやる活動？」 初歩から考える地質物品の販売問題	講義棟2階 2203
分科会④	ガイド研修会	看護棟2階 6201
分科会⑤	市町村長セッション 「ジオパークは誰のためのもの？」	銚子マリーナセンターハウス
分科会⑥	ユースセッション 「ユース世代で考える地域と地球の未来」	千葉科学大学 銚子市内各所
秩父会場	タイトル	場所
分科会⑦	ジオパークから発信するサステナブルツーリズムの今	けやきフォーラムC
分科会⑧	つながりを取り戻す -フェノロジーカレンダーで地域風土を再発見-	けやきフォーラムD
分科会⑨	各地の事例から考える ジオパークの教育・学習の意義とは？	けやきフォーラムA・B
分科会⑩	多様性をどうジオパークで活かす？ UDで実現させたいサステナビリティ	会議室1
分科会⑪	ジオ・エコ・ヒト -なぜジオパークで生態学？-	会議室2

交流会

● 銚子会場

新型コロナウイルス感染症も落ち着きを見せていたことから、大会会場がある屏風ヶ浦ジオサイトから犬吠埼ジオサイトへバスで移動した。犬吠埼灯台が見える「絶景の宿 犬吠埼ホテル」を会場として約350名が参加し、久しぶりに会う全国の仲間たちとの交流を楽しんだ。交流会会場からの帰路は、銚子電鉄に乗車し、車内も大いに盛り上がっていた。銚子会場参加者には、銚子電鉄様から「特別一日乗車券」がプレゼントされた。



● 秩父会場

ジオパーク秩父の文化・歴史サイトである「秩父神社 参集殿」を会場として約130名が参加。秩父まるごとジオパーク推進協議会の会長挨拶から始まり、フィンランドから来日していたインパクトクレーターレイクジオパークの2名も参加者に向けて挨拶された。さらに、分科会⑦にパネリストとして参加していた新名阿津子氏(高知大学/日本ジオパーク委員会委員)に登壇していただき乾杯の挨拶をいただいた。最後には次回大会開催地域である下北ジオパークが開催の意気込みを述べて終了となった。



屏風ヶ浦ジオマルシェ(銚子会場)

銚子市を訪れるジオパーク関係者のおもてなしと、銚子市民をはじめ地域住民の交流の場とするとともに、海洋ごみ減量や豊かな千葉の里海づくりという持続可能な地球環境の保全を図るイベントとして実施した。



出店一覧

銚子ジオパーク推進協議会	龍神家
日本遺産北総四都市江戸紀行推進協議会	成田食料(株)
千葉銚子オフショアウインド合同会社	CHO-C NUTS・銚子ビール
筑波山地域ジオパーク推進協議会	生活クラブ生活協同組合
銚子ジオパーク市民の会	Henney Farmの餃子屋さん
日本ジオパークネットワーク関東ブロック	石上酒造
気象庁銚子地方気象台	なぞのくじびきやさん
千葉県立中央博物館(九十九里の蜃気楼)	Paradise Beer & Paradise Gelato
千葉県立中央博物館(うみ鳥っぴん銚子)	阿野全成と浮島ジオ学研究会
CHOSHI KAYAKS・ 銚子ライフセービングクラブ	新潟県立海洋高等学校
銚子海洋研究所・一般社団法人OceanLifeCommunity14	嘉平屋
台湾・野柳地質公園(姉妹ジオパーク)	Koloa1113
千葉科学大学	カヌレ専門店 WAKU
台湾観音茶房	千葉県立銚子商業高等学校「夢市場」プロジェクト
台湾桃園市(友好交流都市)	Sweetcafe Mico
NPO法人田淵チバニアンズガイド部	ロウライドッグ
アジア航測株式会社	ピッツェリア オアジ
銚子市観光協会	キッチンカーTORIKO
銚子市(観光案内・ふるさと納税PR)	LANIKAI
sharuru hippo	ニコカフェ
一般社団法人MM企画ちば	たこ焼き上々

交流広場(秩父会場)



ジオパーク秩父と2022年から覚書を交わし、相互連携を図っているフィンランドのインパクトクリエイターレイクジオパークが全国大会に合わせて来日し、パンフレットや絵本、パネルを展示した。

太古の秩父に広がっていた海「古秩父湾」の跡をたどるフォトコンテストの受賞作品を展示し、秩父会場に訪れた大会参加者や一般の方たちにも鑑賞いただいた。



秩父まるごとジオパーク推進協議会では2022年度よりジオパーク秩父の多様なコンテンツをVR動画にして魅力を発信している。今大会でもVR視聴ブースを設置し、子どもから大人まで楽しんでいただいた。

イオン環境財団によるブース出展(銚子会場)

2022年10月22日にイオン環境財団は日本ジオパークネットワークと、一般市民への認知度向上や、環境教育を通じて保全を図るとともに、ジオパークの所在する地域の発展を目指し、包括連携協定を締結した。この協定の元、今回は銚子全国大会の開催期間中、千葉科学大学マリーナキャンパスにブース出展し、参加者の皆さまにイオン環境財団の活動を報告するとともに、交流や情報交換を行う事ができた。



10月29日(日)



回頭発表

ジオパークに関するさまざまな活動事例、研究成果、問題点やそれに対する取り組みなど、幅広い観点からの事例を共有した。

● 銚子会場



● 秩父会場



ポスター発表

ジオパークに関するさまざまな活動事例、研究成果、問題点やそれに対する取り組みなど、幅広い観点からの事例を共有した。コアタイムでは活発に質疑応答がなされた。さらに、小中高生による発表では多くの参加者が視聴した。

● 銚子会場



● 秩父会場



閉会式

分科会・セッション報告



関谷 友彦(ジオパーク下仁田協議会)

- 分科会①: 災害(防災・減災)をどう伝えるか
- 分科会②: ジオパークから考える川・海のゴミ問題
- 分科会③: 「ジオパークって何をする活動?」
初歩から考える部室物品の販売問題



市川 燈(箱根ジオパーク推進協議会)

- 分科会④: ガイド研修会
- 分科会⑤: 市町村長セッション
「ジオパークは誰のためのもの?」



岩本 直哉(銚子ジオパーク推進協議会)

- 分科会⑦: ジオパークから発信するサステナブルツーリズムの今
- 分科会⑧: つながりを取り戻す
-フェノロジーカレンダーで地域風土を再発見-
- 分科会⑨: 各地の事例から考える
ジオパークの教育・学習の意義とは?



上田 脩郎(銚子ジオパーク推進協議会)

- 分科会⑩: 多様性をどうジオパークで活かす?
UDで実現させたいサステナビリティ
- 分科会⑪: ジオ・エコ・ヒト
-なぜジオパークで生態学?-

※分科会⑥ユースセッションについては、閉会式で報告できず、関係者の皆さまに対しましてお詫び申し上げます。

次回開催地域あいさつ



下北ジオパーク
青森県知事より
ビデオメッセージ

下北ジオパークの
皆さま



閉会あいさつ



実行委員会会長 越川 信一

銚子ジオパーク

企画展

「千葉の自然再発見～銚子から見つめるカコ・イマそしてミライへ～」

- 開催時期 令和5年9月16日～令和6年3月31日
※大会期間中、銚子会場でも開催
- 趣旨 銚子を中心とした千葉県の自然の魅力をパネルと標本で広く伝える企画展。自然の魅力とそれに関連した環境問題などを併せて紹介することにより、地球・千葉県の過去を知り、未来について考え、今を生きる私たちが未来に向けてどのように行動することが望ましいかを考える機会を提供することを目的とした。



延宝地震の津波堆積物



全国大会での展示の様子

- 展示内容 3つのコーナーテーマを設置。
延宝地震の際の銚子を襲った大津波の津波堆積物などの標本を初公開した。
- 地質から過去を知る 付加体／白亜紀の地層／銚子の化石／過去の津波
- 銚子の風土の形成について 黒潮／利根川
- 現在の環境と未来について 蟹気楼／生態系／地球温暖化について
- 今後の活動について 展示物は事業終了後も保管し、イベント等で貸し出せるようにする。また、津波堆積物などの展示した標本の一部は常設展示に活用する。

ジオパーク秩父

令和4年度実施
モニターツアーの様子



企画ツアー

「ジオパークによるサステナブルツーリズム実践～秩父の自然・文化を守人(もりびと)と巡る旅～」

- 開催時期 令和5年9月23日(土)
※最少催行人数に至らず不催行
- 趣旨 ジオパーク秩父では令和4年度よりサステナブルツーリズムにおいて、ジオパークの理念を活かしてどのように貢献できるのか模索してきた。同時に、研修会やモニターツアーを実施しながらガイドの育成にも取り組んできた。多くのジオパーク関係者が集まる全国大会で、私たちが構想するツアーに対してあらゆる視点からの意見を聞き、検証・再考する機会として企画した。

- 行程内容 バスツアー
西武秩父駅→美の山公園(秩父盆地眺望サイト)
→ガーデンハウス有隣(昼食)→長瀬ライン下り・岩畳散策
→聖神社(「和同開珎」誕生の地)→秩父札所32番法性寺
→西武秩父駅

- 今後の活動について 今回はこれまでの活動を踏まえて初の一般向けツアーだった。初心者でも関心を寄せてもらえる内容を心がけたが、さらにターゲットを絞り内容を磨き上げてツアー実施を目指したい。



令和4年度実施
モニターツアーの様子

伊豆大島ジオパーク

伊豆大島ジオパーク教育旅行モニターツアー 「生きている火山島の変動と植生遷移を学ぶ」

- 開催時期 令和5年8月22日(火)～24日(木)
- 趣旨 伊豆大島ジオパークのフィールドならではの地域資源を教材とする教育旅行を誘致・活性化させることを目的として、教員および教育旅行を取り扱う旅行会社を対象としたモニターツアーを実施した。



●内容

伊豆大島への教育旅行企画を検討中あるいは関心を持つ、島外の学校教員12名が参加。教育旅行モニターツアー3回目となる今回は、メインテーマを地学+生物学として行程を組み、中高生でも実施可能な溶岩スケッチや植生調査などの実習プログラムも体験いただいた。モニターとして事前・事後アンケートとツアー中の意見交換会、参加レポート提出にご協力いただき、当ジオパークでの教育旅行の実現性や有用性を高めるための意見・提案を聴取した。また、参加者からは「ホンモノを見せる大切さを改めて実感した」「知識と実際に目の前にある観察物の内容が繋がった体験が何度もあった」「あのようなテーマ性をもとにしたストーリーで島のことを学べるのであれば、ぜひガイドを活用したい」といった感想をいただいた。

●開催後の振り返り

過去2回のモニターツアー結果を踏まえ、今回はテーマを絞り、モニターとしての参加条件もより明確にした。それによって、伊豆大島での教育旅行を実施したいという想いを強く持っている方々に参加いただき、より有意義な意見が集約できた。

当ジオパークの場合は、裾野を広げる取り組みよりも、まずは焦点を定めて実績数を増やし、具体事例を提示していく方法から始めることが効果的と感じた。



●今後の活動について

モニターツアーの結果に基づき、教育旅行誘致のツール制作や誘致活動を行うとともに、大きな課題となっている受け入れ環境(島内交通・宿泊・食事等)の整備について多方面に働き掛けていく。

箱根ジオパーク

関東大震災から考えるこれからの防災・減災



①講演会

●趣旨

2023年は関東大震災100年にあたる。災害は東京府より神奈川県が深刻で、震源に近い箱根ジオパーク地域では大規模土砂災害も発生している。1970～80年代、神奈川県西部で発生する大地震に約70年の周期があることが注目され、次の地震は1990年代前半だと市民の防災意識が高まった。結果的に70年周期説が外れた現在、市民にあの頃の切迫感はない。

イベントではこの100年を甚大な災害の単なる振り返りではなく、ジオパークの視点から地震を引き起こす断層の活動が長い目で見ると恵みももたらしているという視点も加え防災意識の向上を目指す企画とした。

●内容

①講演会

「関東大震災100年～これからの防災・減災～」／7月2日

関東地震の概要と70年周期説のその後、最近の地震活動について学術的な立場から神奈川県温泉地学研究所本多氏から、実際の防災に関し、特に火災について小田原市防災対策課下澤氏から講演をいただいた。箱根町長、南足柄市長をはじめ76名が参加。

②親子体験教室／7月22日

小田原駅前のイベント広場にて、楽しく学べる体験イベントを実施（新聞紙のスリッパ作り、液状化実験、食べられる火山実験〈チョコビスケット火山〉）。71名が参加。

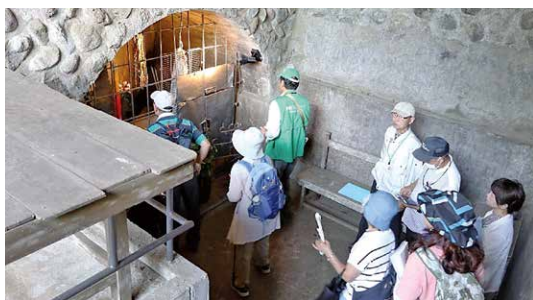


②親子体験教室

③ジオツアー

「箱根ジオパークぐるっと断層の恵み体感バスツアー」／8月28～29日

最少催行人数に至らず、不催行となったが、このツアーは全国大会のポストジオツアーで同様の行程で行うため、ガイドの自己研鑽の場と位置付け、日帰りにし、お互いにジオパーク内の恵みを確認しあう勉強会とした（9月25日）。こちらは参加者も多く好評であった。



③9/25実施模擬ツアー

●開催後の振り返り

箱根ジオパーク内には活火山とプレート境界がある。災害は避けて通れない深刻な立地であるが、本イベントで掲げた「そのような地域だからこそある恵み」にも視点を向ける良い機会になった。

●今後の活動について

防災・減災についての活動も引き続き行い、ジオパーク地域内外の災害の振り返りからの学びに加え、ジオパークならではの取組みともいえる恵みの発信も工夫し、両者のバランスを意識しながら防災・減災の活動を行っていく。

分科会報告 in 銚子GP 10月28日(土)

分科会
1

災害(防災・減災)をどう伝えるか

参加人数

現地参加	オンライン参加
27人	—

企画・運営 箱根ジオパーク推進協議会

概要 2023年は関東大震災から100周年にあたり、箱根ジオパークおよび周辺地域では様々な視点の催しや企画展が開催された。箱根ジオパークは「災害をその振り返りだけでなく、楽しい体験や断層がもたらす恵みといった切り口で防災意識の向上に繋げる」という視点でイベントに取組んだ。分科会では、この取組み内容およびアンケート結果の報告の後に、霧島ジオパーク、銚子ジオパーク、防災ワーキンググループの事例紹介があり、5つのグループに分かれて「自地域のお薦めの食べ物、場所」と「ジオ」との繋がりについての情報交換の後、「災害をどう伝えるか」と「課題の解決に向けて」の2つのワークショップ(以下WS)を行い、それらの結果を模造紙にまとめ共有した。これらは後日、電子データ化して配付した。

内容

- 13:00~13:05 趣旨説明
- 13:05~13:15 アイスブレイク(自地域のお薦めの食べ物・場所)
- 13:15~13:30 箱根ジオパーク イベント報告
- 13:30~13:35 当分科会事前アンケート結果説明
- 13:35~14:10 事例紹介(霧島・銚子・防災WG)
- 14:10~14:25 「お薦めの食べ物・場所」と「ジオ」の情報交換
- 14:25~15:25 「災害をどう伝えるか」WS/休憩/発表
- 15:25~15:55 「課題解決に向けて」WS/発表/まとめ

まとめ 参加者間で活発に意見交換ができた。災害をどう伝えるかについてのグループ発表では5グループがまったく違った内容の発表となり、多くのアイデアを共有することができ、改めてジオパーク活動の幅の広さを再確認できた。それらのキーワードは「自分事」「表裏一体」「ジレンマ」「ゲーム」「おいしい」だった。課題についてはキーワードとして「怖がらせない」「人材育成」「ジオストーリーの査読共有」などが挙げられた。

また、最後の質疑応答の中で「ジオパークって何?って飲み会で聞かれたらなんて答える?」というテーマが投げかけられ、いろいろな意見が出たものの、この点は参加者全員への宿題となった。



アイスブレイク



ワークショップ 討議



ワークショップ 発表

企画・運営

ジオパーク下仁田協議会
一般社団法人隠岐ジオパーク推進機構

概要

参加した人が「山から流れるゴミの海洋環境への影響について実態把握」「清掃活動を通じたジオパーク活動の輪の広げ方」について情報を共有し、各ジオパークでの今後の活動に活かせるものとした。

内容

13:00～13:05 趣旨説明
13:15～13:45 基調講演 ジオパークで海洋ゴミ問題に取り組む意義
(隠岐ジオパーク推進機構 野邊 一寛氏)
13:45～15:00 事例紹介 国内ジオパーク5地域
(隠岐、山陰海岸、下北、下仁田、銚子)
15:00～15:10 ビデオメッセージリレー
15:10～16:00 現地見学 海洋ゴミ拾い実践
指導:千葉科学大学 手塚 聡子氏

基調講演

2021年、隠岐で開催された「国連海洋科学の10年」のキックオフイベントをきっかけにJGNとして、取り組むことになった経緯(参考:国連海洋科学の10年におけるJGN取組推進宣言

<https://geopark.jp/jgn/education/pdf/20211113.pdf>)や、海洋ゴミの実態が陸起源であることの指摘をし、拾うだけではなく、ゴミを出さない努力をしていくことが重要であるという提言があった。

事例報告

山陰海岸、銚子からの事例報告では、カヌーやホエールウォッチングなどのアクティビティ、砂浜での音楽イベントと連携し、清掃活動の参加者層を広げる事例について報告があった。隠岐からは、海洋ゴミで傷ついたウミガメの救出の事例や次世代を担う高校生たちへゴミの問題に気づいてもらうイベントの開催の事例が報告された。下仁田からは、山間地域で川の上流域のゴミの実態と上流から海を守る活動をしている取り組み、下北からは民間主導の清掃活動実績が自衛隊を動かすまでに広がったという事例の報告があった。

まとめ

海洋ゴミ被害の実態、海のゴミの大部分が陸から来ていることについて情報共有した。そして、海洋ゴミ問題は、海岸地域だけでなく、山間地域も含めてネットワークとして取り組んでいくことが大事であり、今後の全国大会の中でも議論を継続していきたいということを確認した。

ネットワークとして取り組む中で、ペットボトルゴミの減少量を年々計量し活動成果を可視化することが提案された。



基調講演・事例報告

清掃活動の実践
マイクロプラスチックの洗い出し

清掃活動実践リレー 動画

参加人数	
現地参加	オンライン参加
45人	4人

企画・運営 JGN地質物品ワーキンググループ

概要 この分科会では、ジオパークとは何を指す活動なのか、なぜ地質遺産を守る必要があるのかを初歩から解説した。そして、現在のジオパークの現状を把握し、各地域で未来の地球に住む子供たちのためにできることは何かを議論した。

- 内容**
- 1 趣旨説明
 - 2 メッセージ動画「ジオパークとサステナビリティ：地質遺産の保全と地質物品の売買の問題」ギー・マルティニ氏
 - 3 基調講演 人新世におけるジオパークの役割「なぜジオパークは地質遺産を守るのか？」脇田浩二氏(山口大学)
 - 4 各ジオパークにおける地質物品販売の現状紹介
 - 5 グループワーク

まとめ 地質物品の販売問題について、ジオパークとは何をする活動なのか？という初歩から考えた。ギー・マルティニ氏の動画を視聴し、脇田浩二氏の基調講演を聞くことで、ジオパーク活動の主体が地質遺産を守るという心にあることが分かった。

また、3地域の地質物品の販売問題に関する話題提供があり、地域ごとの課題やそれに取組む手法が見えた。

最後に、これまでの話題を踏まえて、ジオパークとは何をする活動なのか、なぜ地質物品を販売してはいけないのか、ジオパークの活動を地域に広めるにはどうすれば良いかについてグループワークで発表し、共有した。意見として、地質物品が何を指しているか分かりにくい(例えば砂や湧水も地質物品?)、地質物品販売のグレーゾーンの線引き問題、販売しなくなった場合の代替品の開発、フェアトレードの導入、チラシの制作など多くの意見があった。

地質物品の販売は、各ジオパークにとって、重要でありグレーゾーンの多い問題。今回の分科会で統一した結論を得ることはできなかったが、地域との対話の重要性とジオパークとは何をする活動(地質遺産を守る心を広める活動)なのかについて継続的に議論する必要性で一致した。



企画・運営 日本ジオツーリズム協会

概要 ガイドに必要なインタープリテーションの技術の中で特に重要な4つの要素(TORE)について学んだ。
うまくいくインタープリテーションは、強力なテーマを持ち(Thematic)、内容に簡単についていくことができ(Organized)、聞いている人にとって重要であり(Relevant)、理解するのが楽しい(Enjoyable)という要素が揃っている。この研修会では、TOREの基礎を学び、実践者たちからの経験談を聞くことで、自分のガイドにも活用してもらえと思う。

内容

- 1 TOREの講義
- 2 TOREのデモトークプログラム体験
- 3 TOREについてのディスカッション
- 4 ジオオンラインのふりかえり
- 5 ジオオンラインの担当者によるクロストーク
- 6 質疑応答

まとめ

- ・なぜインタープリテーションが必要か?
- ・インタープリテーションとは何か?
- ・どうやってインタープリテーションするのか?
- ・インタープリテーションをするとどうなるのか?について議論した。
- ・楽しみたいと思っている参加者の興味を惹きつける必要がある。
- ・質の高い体験を提供し、参加者を触発することも大事である。

そのためには、強力なテーマを持ち、内容に簡単についていくことができ、聞いている人にとって重要であり、理解するのが楽しいプログラムにする必要がある。という意見がでた。



参加人数	
現地参加	オンライン参加
29人	—

企画・運営

銚子ジオパーク推進協議会

概要

本セッションでは、地域の経営者である市町村長が本音で意見交換できるよう、参加者資格の制限やワールドカフェの手法を取り入れ実施した。参加者からは、「150分があつという間だった」、「しっかりと話し合えた良い機会だった」などの感想もあり、安心かつ自由に対話を楽しんでいただけたと思う。

内容

- 13:30～ 挨拶・趣旨説明
- 13:40～ アイスブレイク(経験年数、理解度、マニフェスト)
- 13:50～ グループワーク
 - ・テーマ1:住民・議会への説明とその反応、参加者への誘導は?
 - ・テーマ2:あなたの満足はどこにある?
 - ・テーマ3:ネットワークは何のために必要なのか?
- 15:30～ 振り返り&発表
- 15:50～16:00 まとめ

まとめ

- ①ジオパークは、「私たち活動を行う地域のものであってユネスコや日本ジオパーク委員会のものではない」という活動主体としての共通認識のもと、市町村長それぞれが抱える課題について率直な意見交換を行う貴重な機会とすることができた。今後は、全国大会開催時だけでなく、様々な機会をとらえて議論できる場を設けていきたい。
- ②活動地域について、それぞれの地域特性をしっかりと見極めることが重要であり、「ジオ」をベースとしながらもそれにこだわり過ぎず、自由な発想でふるさと学習や防災減災教育、郷土愛を育む活動などを展開したい。
- ③観光振興について、ジオパークだけでは観光誘客につながらないという現実を認識した上で、長期滞在などを通じてその地域のファンとなるような人をターゲットにするなど、インバウンド向けのブランド化や情報発信などを積極的に行いたい。
- ④認定審査について、定期的な審査を行うことでより良い活動となることは認識しながらも、地域においては審査のための活動となっている現状がある。そのために活動を止め、JGNを脱退することのないように、日本ジオパーク委員会とともに審査制度自体の改善・検討を進めていきたい。
- ⑤JGN及びネットワークについて、共通の課題を持つ地域としての連携はより強くしながらも、議員連盟や中央省庁、民間企業など地域外のステークホルダーの取り込みを進め、ネットワークの拡大強化や財源確保などを進めていきたい。



参加人数	
現地参加	オンライン参加
58人	—

企画・運営

銚子GP、鳥海山・飛島GP、糸魚川ユネスコ世界GP、隠岐ユネスコ世界GP、室戸ユネスコ世界GP、山陰海岸ユネスコ世界GP、白山手取川ユネスコ世界GP、Mine秋吉台GP、下北GP、蔵王GP、洞爺湖有珠山ユネスコ世界GP、十勝岳GP、日本ユネスコ国内委員会次世代委員、秋田大学

概要

国内のジオパーク地域で地域課題の解決に向けて活動を行っている中高生や大学生(以降、ユース)が、地域や地球の未来を考える機会をつくった。具体的には、まち歩きを通じて、参加者が自発的に銚子ジオパークの地形地質・自然・文化遺産を見学したほか、室内での対話や意見交換を通じて、それらの持続可能な活用の在り方を検討した。この分科会の参加をきっかけに、自地域における活動を見直し、さらに発展させることに加え、参加したユース間の実質的な連携を活用することで、自地域の活動の質をさらに向上させるきっかけをつくることを目指した。

内容

- 1 バスで銚子市役所に移動。地元の高校生たちと合流。
- 2 班分け後、各班に個別のミッションシートを配付。
- 3 まち歩きをしながら、ミッションシートに記載された課題をクリアしていく(昼食は途中で済ませる)。銚子電鉄も利用しつつ、定められた時間までにメイン会場まで移動。
- 4 メイン会場で、コーディネーターが、ミッションで訪問した銚子ジオパークの見どころを紹介。
- 5 実際に訪れた銚子ジオパークの地域遺産の保護と、それらの持続可能な活用について意見交換。

まとめ

まち歩きを通じて体感・見学した銚子ジオパークの地形地質・自然・文化遺産の活用については、「(エリア内の周遊を円滑にするために)バス停を増やす」「自販機を増やす」「スタンプラリーを行う」「首都圏からのアクセスを改善する」「マップを作る」等のアイデアが出た。しかしながら、これらの地域遺産を”守りながら活用する”という視点を加えると、アイデアの実現には様々な配慮が必要となることについて、共通理解を得た。この議論を地元には当てはめたときに、自分たちに何ができるかを検討してほしいという点と、このセッションをきっかけに、全国のユース世代と活発な交流を継続してほしい、という2点をお願いし、分科会は終了した。



分科会報告 in GP秩父 10月28日(土)

分科会
7

ジオパークから発信する サステナブルツーリズムの今

参加人数

現地参加 オンライン参加

36人

—

企画・運営

秩父まるごとジオパーク推進協議会
丸山芳子氏

概要

サステナブルな観点に基づいて、造成された観光コンテンツをもとに、ジオパークの理念がサステナブルツーリズムに対して、どのように貢献できるかを一般の方や関係者に伝え、考えた。

内容

全体説明	丸山芳子氏 (株)ワールド・ビジネス・アソシエイツ
事例紹介1	吉田健一氏 秩父まるごとジオパーク推進協議会上席推進員
事例紹介2	茂森優子氏 クラブツーリズム(株)
事例紹介3	新名阿津子氏 高知大学教育研究部・ユネスコ現地審査員
解説・共有	丸山芳子氏
グループ別協議	2回(途中休憩)
代表者発表	3分×6グループ
全体講評	丸山芳子氏

まとめ

ジオパークの維持管理を持続可能な形で実現するため観光の活用を考えた。前半は、パネリストの3名からジオパークの観光活用について、秩父や国内外の事例を発表いただいた。後半は、分科会参加者にグループ協議で、パネリストの事例から自らの地域に適用するための手法について話し合った。協議の結果発表では、ジオパークの立地や背景によって多様な課題があるということがわかった。その上で観光活用に重要なこととして、地域内で複数のプレイヤーと密に関わる合意形成、旅行者を巻き込んだサイトの管理や祭りなどの保全、人材育成や高付加価値化のために旅行者の関心に合わせた見せ方などがあげられた。最後にパネリストから、ジオパークのマネジメントの強化が必要であると講評があった。

さらに、フィンランドのインパクトクレーターレイクジオパークからの来賓も参加され、日本とフィンランドが抱える共通の課題として高齢化があること、そのため、車椅子での訪問などアクセシビリティの確保の重要性が指摘された。

サステナブルツーリズムについて国内外の状況も踏まえ、多様な側面からの学びが得られた分科会となった。



参加人数	
現地参加	オンライン参加
29人	4人

企画・運営 浅間山ジオパーク推進協議会・大岩根尚氏

概要

フェノロジーカレンダーは、それぞれの地域の動植物、祭礼行事、食の旬などの1年間の移り変わりを一目でわかるようにした生活季節暦。フェノロジーカレンダーは地域ぐるみで話し合いながら作ることができる。その過程には宝探しのようなおもしろさや発見があり、自分の住んでいる地域が持つ風土や特色を理解するのに役立つ。

この分科会では、地域それぞれのフェノロジーを整理し、その土地における季節・気候と生き物との関り、気候変動の影響などについて考え、自然とのつながりを失うことで引き起こされる環境破壊に目を向け、その失われたつながりを取り戻す手立てについて議論した。

内容

- 13:00～13:05 趣旨説明
- 13:05～13:20 オンライン講演 関 俊明氏(孀恋郷土資料館)
- 13:20～14:00 基調講演 大岩 根尚氏(株式会社musuhi)
- 14:00～15:30 土佐清水、栗駒山麓、苗場山麓各ジオパークからの事例紹介
- 15:30～15:50 総合討論 まとめ

まとめ

科学技術の進歩とともに、自然と共生してきた伝統的な暮らしは失われつつある。言い換えると「私たちと自然のつながり」が失われてきている。このことが温暖化や外来種の分布拡大、過疎化、高齢化、獣害など様々な規模の課題の一因になっている。

フェノロジーカレンダーに人の営みを重ねることを通して、地域で大切にされてきた様々な「私たちと自然のつながり」を再発見することができる。ジオパークの取り組みを通じてこれらに改めて光を当て、例えばジオストーリーの中に位置付けて語り直していくことが、地域の誇りを育み、地球を持続可能な場所に変えていくための確実な一歩となりそうだという学びを得て分科会を終えた。



参加人数	
現地参加	オンライン参加
36人	9人

企画・運営 JGN教育ワーキンググループ・山本隆太氏

概要 ジオパークで行われている教育・学習にはどのような意義があるのだろうか。各ジオパークの教育事例・学習事例の報告をもとに、ガイドラインや全国大会の流れも含めて、ジオパークの教育・学習の意義について参加者同士で対話した。

内容

- 1 趣旨説明
- 2 事例発表
 1. 浅間山北麓ジオパーク 中山 邦男氏
 2. 伊豆大島ジオパーク 臼井 里佳氏
 3. 立山黒部ジオパーク 山瀬 裕子氏
 4. 伊豆半島ジオパーク 遠藤 大介氏
 5. ジオパーク秩父 館野 繁彦氏
- 3 対話
- 4 全体共有

まとめ 5つの事例発表をもとにグループ討論を行い、ジオパーク教育・学習の意義についての意見を共有した。

ジオパークの教育・学習の意義は、地質地形、生態系そして人々の営みを包括的に捉えながらその成り立ちやしくみまでを理解することで、ヒト・コト・モノのつながりを「ストーリー」として認識できるようになること。また、地域の魅力をストーリーとして表現しながら地域社会に参画することができること、また、その経験が郷土愛の醸成へとつながりうること。

これら学習者の認知と情意を育むという意義を確認した上で、さらに踏み込んで、ジオパークの教育・学習に見いだせる意義について以下の6つを挙げる。

- 学びの対象をより長い時間軸で、より広い空間感覚でとらえることができること。特に、身近な地域から地球までの広がりを感じることで、自分自身が「ちっぽけ」な存在であることを体感できること(時間軸と空間軸)
- 防災学習において災害を伝える人の命を守ること(防災)
- むき出しの自然をフィールドで体験し、「え、うそでしょ?」というような驚きやギャップで心が揺さぶられること(感動)
- 教えるものではなく「感じてもらうこと」。自分の感性に従って深く知っていくと分解能が高くなる、分解能が高まるとさらに感性が高まる、そこにループがうまれること(感性と分解能)
- 自然を「好き」という気持ちが、知りたいという気持ちだけでなく、「守りたい」という気持ちになること(保護意識の萌芽)

- ジオパークのネットワークを通じて、自分の地域だけでなく他のジオパークと「比較」することができ、地域への感覚がより一層研ぎ澄まされること(地域比較)

教育分科会を通じてジオパークの教育・学習には多様な意義があることを確認した。



参加人数	
現地参加	オンライン参加
8人	2人

企画・運営 JGNユニバーサルデザインワーキンググループ

概要

人は地球で生き続けるために、地球の多様性を理解し、活かし、寄り添いながら先祖代々生き続けてきた。その中で、文化や産業、日々の暮らしは多様になり、また、それぞれの土地でも、人の多様性を受け入れ、支え合って生きている。この、地球の多様性とそれが人にあらゆるレベルで影響を与え続けていることの重要性を今一度見つめ直す場であるジオパークでは、地球で持続的に生き続けるために多様性をどう活かすかを積極的に考えなければならない。

本分科会では、ジオ多様性の高い日本のジオパーク各地から、それぞれの地球科学的特徴やそれによって生まれた人の暮らしの多様性を持ち寄り、その中でどう持続的に活動していくべきかをユニバーサルデザインの目線で議論した。

内容

- 1 今までの活動について(松原氏、西島氏)
- 2 何故ジオパークでUD(丸橋氏)
- 3 各ジオパークにおける多様性を活かす活動紹介(北村氏、西島氏、ほか)
- 4 グループワーク

まとめ

多様性の高い日本のジオパーク各地から強みや課題を持ち寄り、多様性の中で多様な人々が心地よく持続的に生きていくにはどうすればよいかをユニバーサルデザインの目線で議論した。

なぜジオパークにおいてユニバーサルデザインが大切なのかを共有した後、①触感での石の分類、②コンテナに入れたスコリアの上を歩く火山体験、③鳴き砂体験、④補助器具を利用した車いすでの野外ツーリズムや野外避難体験を、参加者と実演。最後にグループワークを行い、各地域の特徴の中でユニバーサルデザインを生かして何ができるかを議論した。

各チームからは、「多くの人の意見を聞く機会を設けるべき」、「熱い気持ちが大切で、それは健常者が相手であっても同じ」、「各地の経験をネットワークで共有して学びの機会を増やすべき」などの意見が出された。



参加人数	
現地参加	オンライン参加
25人	4人

企画・運営 JGN生態学ワーキンググループ

概要

ジオパークでは折に触れて「ジオ・エコ・ヒト」というフレーズが聞かれますが、「エコ」が何を示しているのか、なぜ重要なのか、どのような活動を展開すればよいのか、いまいちピンと来ていない人も多いのではないかと。本分科会の前半では、「エコ」にかかわる専門性を活かして様々な立場からジオパーク活動に携わっている生態学WGのメンバーによる話題提供を通じて、ジオパークにおける「エコ」の理解を参加者と共有することを目指した。後半では、ジオパークの現場における「エコ」の担い手である生物系の専門員等による座談会を開き、「エコ」に関する各地の活動の実例を紹介したうえで、課題や今後の方向性について参加者と意見交換した。

内容

- 1 趣旨説明(平田和彦氏)
- 2 生態学WGのあゆみ(藤井利衣子氏)
- 3 ジオパークにおける「エコ」(中村真介氏)
- 4 各地の実例紹介を交えた座談会
(三好:福井智香子氏、四国西予:加藤雄也氏、伊豆大島:伊藤舜氏、山陰海岸:太田悠造氏、土佐清水:森口夏季氏、隠岐:立花寛奈氏、鳥海山・飛島:長船裕紀氏、以上7地域)

まとめ

- 1.「エコ」の保全は、「点」ではなく「面」で守ること、
生き物単体だけでなく生育・生息環境を丸ごと守ることが大事
 - 2.全部をジオパーク運営団体に背負うのではなく、
市民団体や大学・研究機関などと連携することで実現
 - 3.生態学的な知見に基づいた普及啓発
(e.g. アメリカザリガニの放流問題など)
 - 4.“研究”-“保全”-“教育”-“経済”の好循環
- ※分科会の内容と成果は、電子ジャーナル「ジオパークと地域資源」Vol. 6に特集として掲載を目指し投稿中。



銚子会場

会場：千葉科学大学マリーナキャンパス

会場：講義棟2階 2202

発表者名	ジオパーク地域名	発表テーマ	タイトル
横山 光	洞爺湖有珠山ジオパーク	災害	自然事象に主体的に関わることから始める減災教育
石川 徹	霧島ジオパーク	災害	発災時にジオパーク地域には何ができるか
松原 誠ほか	防災科学技術研究所	災害	防災科学技術研究所が提供するジオパークで活用が期待される情報

会場：講義棟2階 2203

発表者名	ジオパーク地域名	発表テーマ	タイトル
福村 成哉	南紀熊野ジオパーク	保全	フェニックス褶曲の整備と整備後の利用について
宮島 宏ほか	糸魚川ジオパーク	めぐみ	新潟県の石になった糸魚川ジオパークの翡翠

会場：講義棟2階 2204

発表者名	ジオパーク地域名	発表テーマ	タイトル
設楽 健夫	筑波山地域ジオパーク	その他	筑波山地域ジオパーク市民活動部会—霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁法保存会の活動紹介～共生のシンボル—観光帆引き船の100年後の操業目指して～
小長谷 誠	山陰海岸ジオパーク	その他	歴史散策にジオの視点を加えてみる ～京丹後市にあった海軍河辺飛行場の痕跡を辿る～
森 輝隆	島原半島ジオパーク	その他	銚子のジオサイトを巡ってみれば、島原半島に行きたくなる件
福原 公一郎	山陰海岸ジオパーク	その他	ジオパークガイド団体:ジオsen.s【教育・観光・SUP(マリナクティビティ)・体験活動】→インフルエンサー・高口コミ高評価
小川 静香	アポイ岳ジオパーク	その他	アイヌの伝説とジオパーク@図書館
伊藤実知子	三陸ジオパーク	その他	ジオストーリー作成から見る郷土史の再発見・再評価とジオパーク間連携の可能性

会場：講義棟2階 2206

発表者名	ジオパーク地域名	発表テーマ	タイトル
鈴木 倫太郎	喜界島	その他	喜界島におけるジオパーク認定に向けた取組 —離島における地域資源活用と課題解決の視点から—
榊山 匠	四国西予ジオパーク	その他	四国西予ジオミュージアムの準備と開館後の状況
山本 親人ほか	四国西予ジオパーク	その他	「蔵貫白石鍾乳洞と石灰岩」のジオサイト指定に至る地域の取り組み
手束 聡子	銚子ジオパーク	その他	大学における銚子半島の自然を活用した環境教育の実践
香取 拓馬	糸魚川ジオパーク	その他	地域性と高校の特色を活かした探究学習プログラム
柿崎 喜宏	室戸ジオパーク	その他	室戸の大地の成り立ちを説明するマンガを導入したリーフレットの作成
植木 岳雪	銚子ジオパーク	その他	ジオパークと研究者のwin-winな関係:室戸ジオパークのパートナー研究者制度

会場：講義棟2階 2103

発表者名	ジオパーク地域名	発表テーマ	タイトル
篠原 五良	讃岐ジオパーク構想推進委員会	ガイド	「出会い、学び合い、伝え合う。」讃岐ジオガイドになって繋がる喜び
荒木 藍	その他	ガイド	科学と地域を統合する洞爺湖有珠山マイスターの専門知 ～科学者・行政との協働から明らかにする質的研究～
松下 竜之介	三陸ジオパーク	ガイド	歩いて知る三陸ジオパーク～みちのく潮風トレイル1000kmを通じて～
高橋 晃	三陸ジオパーク	ガイド	三陸の民間伝承にみるジオー2

会場：講義棟2階 2208

発表者名	ジオパーク地域名	学校名	タイトル
神田 理輝ほか	Mine秋吉台ジオパーク	美祿市立大嶺中学校	私たちのジオパーク-カリキュラム・マネジメント-
中村 海斗ほか	糸魚川ジオパーク	新潟県立海洋高等学校	ジオパークの恵み「あんこう吊るし切り」は事業化できるのか？
村上 柚葉ほか	隠岐ジオパーク	島根県立隠岐高等学校	記憶に残る 家族で繋がる原始人体験
鈴木 琴美ほか	蔵王	宮城県蔵王高等学校	高校生によるジオツアーの実践
島田 美優ほか	銚子ジオパーク	千葉県立銚子商業高等学校	「銚子夢市場プロジェクト」 ～高校生が与えるインパクト銚子で味わう感動を～
磯山みなみほか	銚子ジオパーク	千葉県立銚子高等学校	ディズニーリゾートの防災
上羽 柚夕ほか	山陰海岸ジオパーク	京都府立丹後緑風高等学校網野学舎	地産地商 ～高校生の私たちに何ができるのか～

秩父会場

会場：秩父宮記念市民会館

会場：けやきフォーラムA

発表者名	ジオパーク地域名	発表テーマ	タイトル
藤崎 健一郎ほか	日本大学生物資源科学部・ 東京農業大学地域環境科学部	ツーリズム	真鶴半島番場浦海岸の観光資源としての活用への提言
相田 夏季ほか	土佐清水ジオパーク	ツーリズム	NHK連続テレビ小説「らんまん」が高知県の観光に与えた影響は？

会場：けやきフォーラムB

発表者名	ジオパーク地域名	発表テーマ・学校名	タイトル
太田原 潤ほか	下北ジオパーク	フェノロジー カレンダー	菅江真澄の日記から読み解く 近世下北地方のフェノロジーカレンダー
森口 満久ほか	佐渡ジオパーク	SadoGeoClub	知られざる佐渡ジオの魅力 ～島なのにこんなところがあるのか編～

会場：けやきフォーラムC

発表者名	ジオパーク地域名	発表テーマ	タイトル
森本 拓ほか	島原半島ジオパーク	その他	ジオパークポロシャツ展の観覧者が選んだお気に入りのポロシャツ デザインの傾向
殿谷 梓ほか	三好	その他	複数自治体からなるジオパーク地域の運営・活動から三好ジオパーク 構想の課題を考える
安藤 和也	山陰海岸ジオパーク	その他	えっ！演劇とジオ？ ～山陰海岸ジオパークフォーラム開催とその後の取り組み～
図師 聖士	霧島ジオパーク	その他	霧島ジオパークにおける民間事業者との連携 ～VR技術を用いた仮想空間体験コンテンツ制作とその活用について～

会場：けやきフォーラムD

発表者名	ジオパーク地域名	発表テーマ	タイトル
小澤 恵理	南アルプス(中央構造線エリア) ジオパーク協議会	教育	南アルプスジオパークをフィールドとした ICT サマーキャンプ
日比谷 剛	白山手取川ジオパーク	教育	白山手取川ジオパークの教育活動のこれまでと今後について ～ユネスコ世界ジオパーク認定に際して～
Heikki Mäkipää	ジオパーク秩父	教育	ジオパーク秩父とフィンランドのインパクト・クリエイター・レイク・ ジオパーク地域の連携
山本 隆太	その他	教育	ジオストーリーがそのまま教材になる！「ミステリー」の教材を作成し実践しよう

ポスター発表

10月28日(土)～29日(日)

※29日(日)10:45～11:45にコアタイムを設定

銚子会場

会場:千葉科学大学マリーナキャンパス 厚生棟

災害 、保全 、ガイド 、めぐみ 、その他

発表者氏名	ジオパーク地域名など	タイトル
成田 浩一	山陰海岸ジオパーク	山陰海岸ジオパークと地震
先山 徹	なし	山陰海岸ジオパークに見られる綱引き行事 – 藁蛇行事と地質災害の関係 –
松原 誠	防災科学技術研究所/日本地震学会ジオパーク支援委員会	日本地震学会のジオパークにかかわる企画
藤本 一雄	銚子ジオパーク	ジオパークと災害伝承 – 自然災害を起源とする周年行事に関する調査 –
朝日 啓泰	下北ジオパーク	下北ジオパークにおける海洋ごみ問題の現状と対策
石川 徹	霧島ジオパーク	複合的な価値を持つサイトの保全と活用
高場 智博	五島列島(下五島エリア)ジオパーク	五島列島福江島、魚津ヶ崎、勘次ヶ城における漂着ペットボトルの状況とサイト保全に向けて
大西 潤	とかち鹿追ジオパーク	とかち鹿追ジオパークの保全活動紹介(鉱物産地の保全)
堀内 悠	おおいた姫島ジオパーク	おおいた姫島ジオパークにおける文化的景観の活用
湯川 乙稀	銚子ジオパーク	銚子市沿岸におけるマイクロプラスチック汚染の現状と課題
前川 久則	讃岐ジオパーク構想推進準備委員会	ジオガイドが1400万年前のカルデラ跡発見
鶴田 聖子	讃岐ジオパーク構想推進準備委員会	ジオクルーズによる瀬戸内海魅力発信の提案
宮島 宏	糸魚川ジオパーク	糸魚川ジオパークにおけるガイドの諸問題
今井 ひろこ	山陰海岸ジオパーク	Googleマップを活用したジオガイドの情報発信強化
小島 隆夫	苗場山麓ジオパーク	苗場山麓ジオパークにおけるガイドの実践
鈴木 悟	八峰白神ジオパーク	手作り地質図MAPの活用「ザット、1億年」MAPで!
福島 大輔	桜島・錦江湾ジオパーク	日本ジオツーリズム協会活動報告
山西 敏広	三好	みよしジオガイドの会(三好ジオパーク構想)「動く大地が創った空へつづく集落と吉野川の流れ」
谷岡 奈美子	Mine秋吉台ジオパーク	Mine秋吉台ジオパークでバリアフリーなフリップと夏休み冊子の作成
斉藤 みよ子	萩ジオパーク	萩ジオパークの体験プログラムのづくり方
高橋 晃	三陸ジオパーク	ジオガイドが語る縄文遺跡-2
伊東 聡	伊豆半島ジオパーク	【2年目】大河ドラマ「鎌倉殿の13人」阿野全成から公暁へ ジオサイト・フィールド研究による「物語」の発見と地域連携・振興
山本 俊夫	阿蘇ジオパーク	夏目漱石と阿蘇ジオパーク
青野 範子	十勝岳ジオパーク	五感で楽しむ活火山
山田 弥生	古関東深海盆	古関東深海盆の贈り物 ～ガス田 様々な地下水～
唐澤 優大	銚子ジオパーク	銚子産琥珀の特徴に関する一考察
吉松 三男	Mine秋吉台ジオパーク	秋吉台の窪畑でござうを作る
関谷 友彦	下仁田ジオパーク	地球に配慮した時間旅行へ・ジオトレインに乗って下仁田ジオパークへ行こう・
仲江 孝丸	南紀熊野ジオパーク	鯨とともに生きる
郡山 鈴夏	糸魚川ジオパーク	地質学会ランチョンセッション「ジオパークで働く」-開催報告ジオパーク専門員の役割について-
笠間 友博	箱根ジオパーク	投げ釣り発祥の背景について
倉科 萌	箱根ジオパーク	子育て世代の目線でつくる、子どもに伝わりやすい箱根ジオパーク入門絵本教材作成の試み
上地 義隆	喜界島	喜界島ジオパーク(構想)における島民のジオパーク認知向上に向けた取組
上田 昇	立山黒部ジオパーク	立山黒部ジオパーク新サイトの活用
榊山 匠	四国西予ジオパーク	2023年「地質の日」オンライン普及講演会におけるジオパーク拠点施設の連携
富島 千晴	十勝岳ジオパーク	拠点施設整備(上富良野町郷土館・火山砂防情報センター)
金田 皓樹	洞爺湖有珠山ジオパーク	洞爺湖町におけるICT活用の進捗と今後の展望
安部 豊	その他	わかりやすく解説するイラストの力 – 博士イラストレーターのできること –
濱田 真実	島根半島・宍道湖中海ジオパーク	島根半島・宍道湖中海ジオパークのおもしろさの広げ方-島根大学ジオパーク学生サポーター(SDGs)の取り組み-
松田 利宣	蔵王	蔵王ジオパークフォーラム2023の意義 – 認定保留を考える
白井 孝明	萩ジオパーク	萩ジオパークのづくり方
植木 岳雪	銚子ジオパーク	センサーカメラによるジオサイトの来訪者数調査
糟谷 大河	銚子ジオパーク	千葉県銚子市に隔離分布するゼニバサイシンの系統地理
阿部 仁美	銚子ジオパーク	渡り鳥の聖地?千葉県銚子周辺における渡り鳥の飛来・繁殖状況
宮内 敏	銚子ジオパーク	銚子ジオパーク市民の会

小中高生

発表者氏名	学校名	タイトル
南澤 英夫ほか	青森県立大湊高等学校	「シン・ベこもち」郷土食の未来を創造する
秋葉 詩音ほか	石川県立鶴来高等学校	白山手取川ジオパークを未来へ！～若者と地域を繋ぐために私たちができること～
原 蓮馬ほか	島根県立隠岐高等学校	仲間をふやす学びのシェアとは？
伊藤 伸ほか	宮城県蔵王高等学校	高校生によるジオツアーの実践
鎌倉 陽菜	千葉県立佐原高等学校	サメの歯化石からサメの体サイズを推測する
真田 謙一郎ほか	新潟県立糸魚川白嶺高等学校	白嶺防災フォーラムにおける防災・減災教育活動について
津田 陽介ほか	様似町立様似中学校	様似町を有名にするには
田口 陽平ほか	新潟県立海洋高校	ジオパークの恵み「あんこう吊るし切り」は事業化できるか
川口 隼ほか	島根県立隠岐高等学校、 島根県立隠岐島前高等学校	社会にインパクトを与える越境する高校生サークルWAIRA ACT

秩父会場

会場：秩父市役所本庁舎3階 庁議室・会議室・廊下

ツーリズム 、フェノロジー 、教育 、生態 、その他

発表者氏名	ジオパーク地域名など	タイトル
光成 紀恵	南紀熊野ジオパーク	世界文化遺産との連携強化
臼井 里佳	伊豆大島ジオパーク	伊豆大島ジオパーク解説版・案内板の変遷 読んでもらえる看板をめざして
川村 教一	山陰海岸ジオパーク	ジオツアーの評価をしませんか？：大学主催ジオツアーの事例紹介
鈴木 太郎	アジア航測株式会社	赤色立体地図による自然公園・ジオパーク紹介サイト「トポジウム」構想 ～日本再発見×サステナブルツーリズムの推進へ～
吉田 健一	ジオパーク秩父	ジオパーク秩父のSDGs
飯田 義彦	その他	山と森のフェノロジーカレンダーを活かす現地学習プログラムの展望： 白山手取川世界ジオパークでの大学院教育活動を事例に
山本 隆太	その他	ジオパークの教育の変遷とジオパーク教育ワーキンググループ
広瀬 幸利	苗場山麓ジオパーク	ジオパークの教育における活用とジオツーリズムの実践
原田 拓也	栗駒山麓ジオパーク	栗駒山麓ジオパークの学習プログラムの再編成とその実践
遠山 昂	阿蘇ジオパーク	阿蘇ユネスコ世界ジオパークのフィールドを活用した小学生による課題解決学習
阿部 晋之介	国立大雪青少年交流の家	「大雪の森ジオマップ」を用いた自然体験活動
後藤 健一	国立室戸青少年自然の家・室戸ジオパーク	サイエンスキャンプin室戸 ～陸・海・空から眺める！大地の最前線！～
金森 晶作	とかち鹿追ジオパーク	とかち鹿追ジオパークにおける学校教育連携の現状と展望
菊池 恵理	その他	教育事業「子ども地球探検隊」～3つのジオパーク推進協議会との連携による教育事業（防災教育・環境教育）の推進～
高柳 春希	ゆざわジオパーク	秋田県湯沢市川原の湯っこのカジカガエル幼生(Buergeriabuergeri) が摂食する温泉藻とその生態学的な意義について
太田 悠造	山陰海岸ジオパーク	山陰海岸ジオパーク浦富海岸における海洋生物調査とその還元
井川 愛理	その他	
Heikki Mäkipää	ジオパーク秩父	クレーター湖の驚異を発見しよう ～ジオパークで宇宙の自然を満喫する旅～
井上 双葉	Mine秋吉台ジオパーク	イベントのやり方を変えてみた
木村 幸子	Mine秋吉台ジオパーク	毎日開催ジオツアー
遠藤 拓	その他	堆積相解析に基づいた兵庫県豊岡市北部に分布する中新統北但層群の堆積環境の復元
森内 裕之	立山黒部ジオパーク	立山黒部ジオパーク新サイトの教育的活用
安藤 和也	山陰海岸ジオパーク	山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館 文化芸術連携講座の取り組みについて
松原 典孝	山陰海岸ジオパーク	兵庫県豊岡市に分布する玄武洞玄武岩活動前の古環境と火山活動
町 澄秋	恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク	恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークにおける考古学と地球科学のコラボレーション
加藤 雄也	四国西予ジオパーク	フリーマガジン『だいちのめ』を通じたジオパーク推進の取り組み
中谷 優輝ほか	三笠ジオパーク	教育旅行受け入れに関する積極的な取り組み

小中高生

発表者氏名	学校名	タイトル
斎藤 紗織ほか	佐渡市立両津小学校	両津っ子の加茂湖物語 パート2
椎井 慎太郎ほか	真野小学校	真野のジオパークをしよう
黒岩 彩香ほか	群馬県立嬭恋高等学校	嬭恋村の謎
生須 若菜ほか	群馬県立長野原高等学校	ジオパークを活用した学習活動の取り組み

プレジオツアー① ～銚子GP～

10月26日(木)～27日(金)

①-1

江戸時代からジオパーク!?銚子磯めぐりツアー

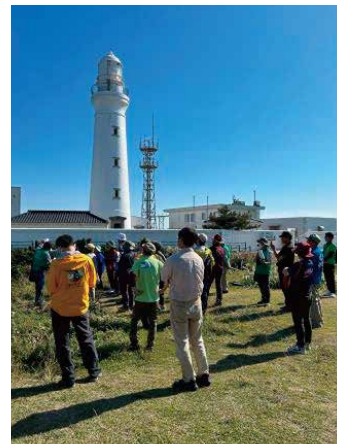
ガイド名 石嶋博行、川原俊久、小玉健次郎、田中豊、松家英彦、宮内敏

参加人数
23人

行程 10月26日(木)
銚子駅→本城ドック(水神社)→飯沼観音→旧西廣家住宅→和田不動尊→川口神社
→千人塚→あかつきの宿 大徳(宿泊)

10月27日(金)
早朝オプションツアー 朝の海鹿島散策→夫婦ヶ鼻→黒生→犬吠埼→犬吠埼観光ホテル(昼食)
→地球の丸く見える丘展望館→外川のまちなみ→千騎ヶ岩→犬岩→屏風ヶ浦→銚子駅着

内容 江戸時代に隆盛した「東国三社めぐり」のオプションツアー「銚子磯めぐり」。大地の営みによりつくられた銚子の磯の景観をめぐる江戸時代のツアーを現代風にアレンジして再現した。初日は、利根川水運より大繁栄した「港町銚子」の隆盛の痕跡の秘密をたどった。2日目は銚子の海岸線の雄大な景観を作り出した大地の歴史を巡った。両日とも、沈みゆく夕日を見ることができ、江戸っ子も魅了したであろう銚子の景観・風土を堪能していただきながら「半島地形の大地」「黒潮」「利根川」がおりなす銚子ジオパークのストーリーを体感してもらった。



ガイド名 向後和子・内匠五月枝・房州文子

参加人数
8人

行程 10月26日(木)
銚子駅→ヘネーリーファーム(収穫体験、キャベツの苗植え、昼食)
→屏風ヶ浦(シーカヤック及びガイド)→犬岩→ホテルニュー大新(宿泊)

10月27日(金)
早朝オプションツアー 朝の犬吠埼&朝ヨガ
→銚子ジオパークの森散策→ヤマサしょう油工場見学→銚子ビール藤兵衛醸造所見学→銚子駅

内容 銚子の大地のめぐみを活用した様々なアクティビティを体験していただいた。初日は銚子特産のキャベツの苗植えなどの農業体験後、昼食はキャベツ餃子をみんなで作って舌鼓。その後、全長10kmに及ぶ海食崖のある「屏風ヶ浦」でのシーカヤックを体験してもらった。2日目は、しおさいを聞きながら朝日の中でのヨガ体験に始まり、銚子ジオパークの森の散策、ヤマサ醤油の工場見学をした後、地元のクラフトビール工場での見学&昼食でこのツアーは終了となった。めぐみの体験だけでなく、そのめぐみを活用している人たちとの交流で大いに盛り上がったツアーだった。



プレジオリョーツアー② ～GP秩父～

10月27日(金) / 10月26日(木)～27日(金)

②-1 街なかを歩いて秩父の歴史とジオを探るツアー

ガイド名 小幡喜一、諸敦夫、高野和之、井上ヤス子、大海七重、小菅桂子、馬場宮子、堀口安彦

参加人数
15人

行程 10月27日(金)
秩父市歴文化伝承館→秩父札所13番慈眼寺→秩父今宮神社→丹党中村氏の墓
→中近の湧水→秩父公園橋主塔→武甲酒造柳田本店→ほっとすぽと秩父館(昼食)
→旧秩父国際劇場→上石商店→たから湯→寺内織物→旧花月→旧柿原商店、旧新井商店
→買継商通り、黒門通り→秩父神社→秩父まつり会館→藺田家住宅→秩父札所15番少林寺
→小池煙草店、旧大月旅館別館、パリー食堂、安田屋→御旅所

内容 秩父盆地に広がる秩父の市街地は「武甲山の伏流水」と呼ばれる湧水によって支えられてきた。段丘崖の湧水や井戸をたどりながら、秩父銘仙の織物工場、銘仙問屋、機屋の出張所のほか、造り酒屋、料亭、花街を巡り、大地の恵みを活かした秩父の産業、人々の暮らしを見てきた。また、秩父盆地を形成する河成段丘を、荒川に架かる秩父公園橋主塔から眺めつつ、階段状の地形を実際に歩いて体感していただいた。秩父の中心市街地では、国の登録有形文化財が建ち並ぶ昭和レトロな街並みの雰囲気を楽しみながら、秩父夜祭の神事が行われる御旅所でゴールとなった。



②-2 バスで巡る日本地質学発祥の地ツアー

ガイド名 小幡喜一、永越信樹、本間岳史、肥沼隆弘、吉田健一

参加人数
24人

行程 10月26日(木)
西武秩父駅→橋立鍾乳洞、秩父札所28番橋立堂→聖神社、黒谷断層、和銅遺跡
→ルートインGrand秩父(宿泊)
10月27日(金)
→美の山展望台→埼玉県立自然の博物館→虎岩、岩畳→前原の不整合→旧寿旅館あびす(昼食)→おがの化石館、
ようばけ→秩父札所32番法性寺→ミュージックパーク→西武秩父駅

内容 「日本地質学発祥の地」として、「地球の窓」と呼ばれる長瀬の岩畳をはじめ、日本列島形成における重要な地質現象を観察できる場所を巡った。また、美の山展望台、ミュージックパークの展望台から秩父盆地を見渡し、盆地の成立を学ぶとともに、かつて盆地に広がっていた古秩父湾の記憶を残す地層も見学した。さらには、宮沢賢治が地質巡検で訪れたジオサイトや旅館、ジオパーク秩父札所観音霊場を巡るなど、2日間で、大地の成立と人々の歴史、文化、暮らしとのかかわりについて体感したツアーとなった。参加者からは、「秩父の地質遺産の質と量に圧倒され、ガイド層の厚さと知識量、解説の分かりやすさに感嘆した。」という声も聞かれた。



ポストジオツアー① ～伊豆大島GP～

10月29日(日)～31日(火)

①-1

噴火のたびに激しく変わる大地！

～活火山の島、伊豆大島から地球活動を体感しよう！～

ガイド名 杉山克己、田中由里香

行程 10月29日(日)
大型客船に乗船(船中泊)
10月30日(月)

大島着→大島温泉ホテル(朝食)→三原山山頂口駐車場→山頂ジオツアーフルコース
(三原山お鉢巡り～裏砂漠～再生の一本道)→大島温泉ホテル(宿泊)

10月31日(火)

外周ジオツアー→筆島・カキハラ磯～波浮港見晴台～砂の浜～地層大切断面～大金沢堆積工・メモリアル公園祈りの広場→仲の原園地(昼食)→赤禿～野田浜→当日の出帆港

参加人数
20人

内容

伊豆大島1日目は絶好の快晴!島ならではの壮大な360度パノラマが一望できた。山頂ジオツアーでは、伊豆大島の激動の火山活動の痕跡を体感しながら、箱根・伊豆半島～伊豆諸島の島々と連なる活火山から沈み込む太平洋プレートが形成した火山弧を感じた。また、割れ目噴火の火口列とその先に鎮座する富士山からは、フィリピン海プレートの進路を追体験し、地球のダイナミズムをリアルに感じることができた。

2日目には島の外周を一周し、陸と海がせめぎ合う現場をご覧いただいた。そして、頻発する自然災害に向き合いながらも、地形や噴出物など火山の恩恵を巧みに活用した島民の暮らしを感じていただいた。



①-2

ぐるっと火山島を味わおう！

～火山島の絶景と、暮らしの知恵と恵みをめぐる旅～

ガイド名 小西谷香奈、金川文代、白井里佳

行程 10月29日(日)
大型客船に乗船(船中泊)
10月30日(月)

大島着→大島温泉ホテル(朝食)→三原山山頂口駐車場→山頂ジオツアー
(三原山火口西展望所まで)→三原山山頂口駐車場(昼食)→椿花ガーデン【椿園見学】

→ふるさと体験館【椿油搾り体験】→大島温泉ホテル(宿泊)

10月31日(火)

外周ジオツアー→筆島・カキハラ磯～波浮港見晴台～波浮港散策→くさや藤文【くさや工場見学】

→カフェ押し花【明日葉てんぷら体験】(昼食)→地層大切断面→当日の出帆港

参加人数
20人

内容

伊豆大島1日目は、まず三原山に登り、伊豆大島が活火山の島であることを実感していただいた後、国際優秀つばき園・椿花ガーデンを見学し、伊豆大島が椿の島になった理由や椿の魅力、そしてそれを活かした取り組みについてお話を伺った。次に、ふるさと体験館にて椿の防風林に囲まれた畑を見学した後、椿の種から油を絞る作業を体験し、その場で椿油を使った炒め物を味わった。

2日目は、あんこ衣裳を着たガイドが登場!噴火と津波と人の英知が結集して生まれた奇跡の港、波浮港を散策しながら、伊豆大島繁栄の礎となった理由を解き明かした。さらに、くさや工場を見学した後、くさやとアシタバ天ぷら、べっこう丼など、火山島だからこそ生まれたグルメを堪能した。



★オプションプログラム

復路に大型客船を利用した方は、展望デッキにて平田和彦氏(千葉県立中央博物館分館海の博物館・研究員)の案内で海鳥観察会を楽しみました。



ポストジオツアー② ～箱根GP～

10月30日(月)～31日(火)

②

ぐるっと断層の恵み体感ツアー

ガイド名 岩城弓雄、山崎陽軒、千石輝雄、山口光彦、小川潤、植田勇次、香川高之

参加人数

7人

行程 10月30日(月)
小田原駅→小田原城址公園、小田原城天守閣→早川漁港(昼食)→根府川駅、釈迦堂、震災石碑→真鶴半島遊覧船、貴船神社、しとどの窟→お林→不動滝→湯河原温泉万葉荘(宿泊)
10月31日(火)
→大観山→箱根関所→万葉うどん本店(昼食)→夕日の滝、金太郎の遊び石→文命堤→道の駅「足柄・金太郎のふるさと」→小田原駅

内容 関東大震災100年を迎えた本年、全国のジオパークの中で最も大きな影響を受けた地域として、地層が災害をもたらす一方で、景観や食などの恵みももたらしていることを体感してもらうツアーを実施した。関東大震災の遺構がある小田原城や釈迦堂、石碑などを巡り、被害の甚大さについて学ぶとともに、早川漁港での海鮮や南足柄の豊かな湧水を利用して作られるうどん、万葉集にも謳われる湯河原温泉などを通して、恵みの豊かさも体感し、大地と人の暮らしの繋がりを味わっていただいた。

オーバーツーリズムの問題を抱える箱根に渋滞なしでアクセスでき、環境への影響に配慮して整備された県道「はこね金太郎ライン」を活用した「サステナブルツーリズム」としての意味も含む少人数ツアーであったため、2日間を通して深く意見交換することができ、有意義なツアーとなった。



ポストジオツアー③ ～筑波山地域GP～

10月29日(日)～30日(月)

②

石・土・水の恵みを感じるツアー

ガイド名 荒川和子、金田玄一、黒澤順一、小塚かほる、高田正澄、田上公恵

参加人数

18人

行程 10月29日(日)
銚子ジオパーク(千葉科学大学)→ダイワロイネットホテルつくば(宿泊)
10月30日(月)
→稲葉酒造(酒造見学)→筑波山梅林→神田屋(昼食)
→筑波山ゲートパークつくばジオミュージアム(中核拠点施設見学)→つくば駅

内容 今秋にオープンする筑波山地域ジオパーク中核拠点施設を見学し、筑波山麓を巡りながら、石・土・水の恵みを実際に体感した。1日目は、全国大会終了後にバスで霞ヶ浦を眺めながら筑波山地域ジオパークへ移動した。2日目は、江戸末期創業の酒蔵をそのまま残し現も酒造りを行なっている稲葉酒造で利き酒をしながら大地の恵みを実感していただいた。また、百名山の一つである筑波山の中腹にある梅林から関東平野を一望したのち、子どもから大人まで楽しみながら学ぶことができる筑波山地域ジオパーク中核拠点施設で、筑波山地域の石・土・水の恵みの理由を知ってもらった。



ポストジオツアー④ ～古関東深海盆構想～

10月30日(月)

②-1 古関東深海盆の贈り物(日帰りバスツアー)

ガイド名 古野邦雄、山田弥生、布施太郎

参加人数

9人

行程 JR大網駅⇒大網白里市内上ガス発生地帯⇒一宮休憩所(波乗りパーキング)
⇒関東天然瓦斯開発株式会社天然ガス採取基地⇒道の駅たけゆらの里(昼食)
⇒養老渓谷(上総層群の地層の観察・足湯)⇒国本の真水の自噴井(車窓から観察)
⇒市原鶴舞バスターミナル⇒JR五井駅

内容 房総半島に分布する上総層群の地下水は深い方から「かん水(化石海水)」「ちゃ水」「真水」の3種類がある。かん水には天然ガスやヨウ素が多く含まれており、ツアーのはじめに九十九里平野で、用水路の底から噴き出てくる上ガス(天然ガスの湧出現象)を観察した。天然ガス採取基地では、深度1000m以上の上総層群の地層からかん水を汲み上げるガス井や、汲み上げたかん水と天然ガスを分離させる分離槽(セパレーター)などを見学し、天然ガスが製品化される工程を伺った。午後は天然ガスが埋蔵される上総層群の砂泥互層の露頭を養老渓谷で観察し、黒湯(ちゃ水)の足湯を体験した。最後は車窓から真水の自噴井を観察し、古関東深海盆で堆積した上総層群の地下水の恵みについて理解を深めた。天然ガス採取基地に興味を持って参加された方も多く、「天然ガスと地層のつながりについて理解できた」との感想も頂いた。



共同開催での活動

共同開催の経緯

関東ブロックのジオパークは7つのジオパーク地域と2つのジオパーク認定を目指す地域で構成されている。そのうち、今大会では海に面した銚子ジオパークと山に囲まれたジオパーク秩父が会場として大会運営を担うこととなった。また、首都圏に近いジオパーク地域であるため、多くの人を呼び込めるよう都内から比較的アクセスしやすい2地域が選ばれた。

実施にあたって

まず、関東ブロック全体の連携強化を図るために例年では実施していなかった「プレイベント」というプログラムを設定した。プレイベントでは本大会で実施する分科会などで議論するテーマを提示しやすくするため、また分科会参加者だけでなく一般の人にも意義を伝えるため開催した。その他に、分科会は開催会場地域だけではなく、箱根ジオパーク、下仁田ジオパーク、浅間山北麓ジオパークもそれぞれの地域で持つ課題をテーマに企画・運営した。

まとめ

都内からアクセスしやすいという利点は大いに効果があったと感じているが、銚子と秩父の2会場同士の行き来が難しく、全国大会の参加者からは全国のジオパーク関係者との交流を図るという目的は達成しにくいという意見があった。また、共同開催として2会場以上を設置するのであれば、地域間の移動が容易な距離感を把握しておく必要があるという指摘もあった。

アンケート集計(抜粋)

第13回日本ジオパーク全国大会in 関東アンケート

実施期間：令和5年12月6日(水)～令和6年1月12日(金)

回答数：回答数242件 うち中央会場参加者171名、サテライト会場参加者63名、オンライン参加者8名

目的：大会参加者の大会テーマ「今こそ行こう!ジオパーク」への理解度、参加後の満足度を図るほか、大会参加に関する基本事項を確認するため実施した。また、今大会は、関東ブロックのジオパーク及びジオパークを目指す地域による共同開催を行ったが、この新たな取り組みについて意見や感想を聞き、今後の持続可能なジオパーク活動及び大会開催の参考とする。

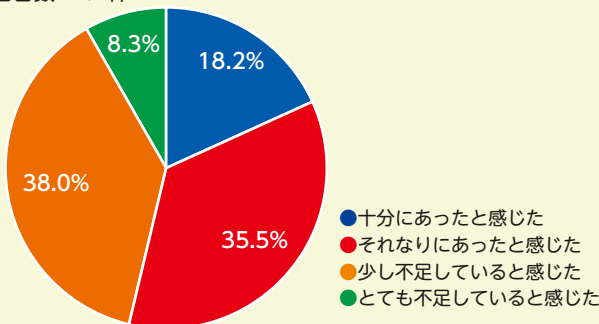
①基本事項

大会に必要な情報は「十分にあったと感じた」「それなりにあったと感じた」との回答が全体の53.7%と、過半数を上回ったものの、全体的に情報が不足していた。SDGsの取り組みとして紙の大会プログラムを配付しなかったことや口頭発表のスケジュールなど大会情報の発信が遅かったため、大会参加者に必要な情報共有ができなかった。

次に、楽しかったプログラムで回答数が多かったものは交流会やポスター発表(一般)であったが、満足度((2)楽しかったプログラムの回答数/(1)参加したプログラムの回答数)では特別座談会、プレイベント、ジオツアー、分科会などの割合が高かった。

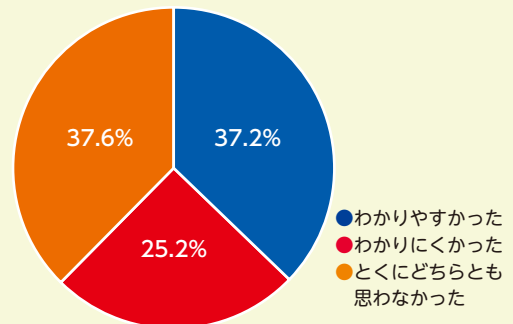
A 参加登録の前後を通して、大会参加に必要な情報等の連絡は十分にあったと感じましたか。

対象：すべての参加者
回答数：242件



B 申込手続きの方法はどうか。

対象：すべての参加者
回答数：242件



C (1)参加したプログラムを選択してください。 /(2)参加して楽しかったプログラムを選択してください。(複数選択可)

対象：すべての参加者
回答数：中央会場(1)1,106件、(2)526件
サテライト会場(1)453件、(2)243件

イベント名	中央会場		
	(1)参加した	(2)楽しかった	満足度
プレイベント	4	3	75.0%
プレジオツアー	23	21	91.3%
JGC事前相談会	17	9	52.9%
JGN運営会議	42	13	31.0%
JGN全地域事務局長会議	22	1	4.5%
開会式	132	14	10.6%
基調講演・基調提言	130	52	40.0%
分科会①	22	16	72.7%
分科会②	42	28	66.7%
分科会③	25	16	64.0%
分科会④	46	25	54.3%
分科会⑤	2	1	50.0%
分科会⑥	11	10	90.9%
ポスター発表(小中高生の部)	59	38	64.4%
ポスター発表(一般の部)	110	57	51.8%
交流会	112	65	58.0%
口頭発表(小中高生の部)	34	20	58.8%
口頭発表(一般の部)	76	41	53.9%
屏風ヶ浦ジオマルシェ	100	57	57.0%
閉会式	68	8	11.8%
ポストジオツアー	29	28	96.6%
特になかった		3	

イベント名	サテライト会場		
	(1)参加した	(2)楽しかった	満足度
プレイベント	1	3	300.0%
プレジオツアー	17	15	88.2%
JGN運営会議	11	3	27.3%
特別座談会	21	21	100.0%
開会式	51	5	9.8%
基調講演・基調提言	52	18	34.6%
分科会⑦	11	11	100.0%
分科会⑧	13	11	84.6%
分科会⑨	21	16	76.2%
分科会⑩	4	5	125.0%
分科会⑪	12	11	91.7%
ポスター発表(小中高生の部)	29	12	41.4%
ポスター発表(一般の部)	47	34	72.3%
交流会	52	27	51.9%
口頭発表(小中高生の部)	9	6	66.7%
口頭発表(一般の部)	42	26	61.9%
プレミアムダイニング	8	4	50.0%
秩父音楽祭	2	0	0.0%
VR体感シアター	10	6	60.0%
閉会式	30	0	0.0%
ポストジオツアー	10	8	80.0%
特になかった		1	

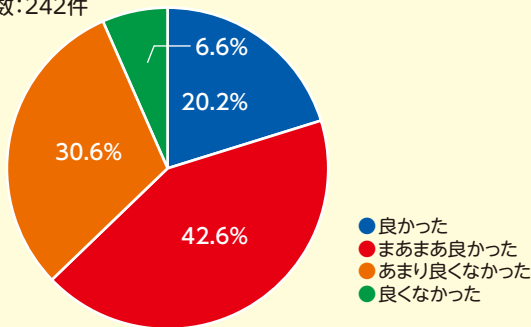
②共同開催及び総合的評価

初の試みである共同開催については、「よかった」「まあまあよかった」との回答が全体の62.8%であり、交流会・宿泊施設などの収容能力に限界があることや1つのジオパークに負担が集中しないような取り組みであることとして、一定の理解を得ることができた。しかし、大会として一体感がないこと、参加者全員と交流ができないことや参加したいプログラムに参加できないことなどの課題が多く寄せられた。中央会場とサテライト会場が離れていたため行き来できず、会場間の交流がなかったことも指摘された。

総合的には、「良かった」「まあまあ良かった」との回答が全体の88.9%であり、課題は山積しているが、全国大会の一つの形として共同開催を提示することができたと思う。

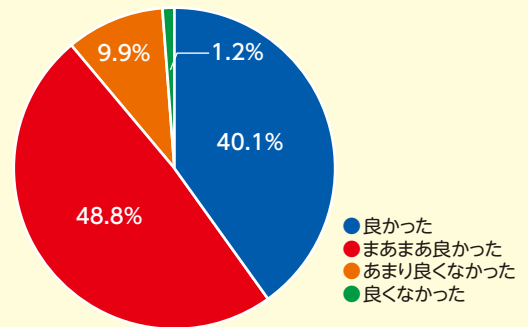
A 今大会は関東ブロックのジオパーク及びジオパークを目指す地域が共同で開催しました。ジオパーク全国大会の共同開催は初となりますが、この試みについてはどのように感じましたか。

対象：すべての参加者
回答数：242件



B 全国大会 in 関東に参加して総合的にどう感じましたか。

対象：すべての参加者
回答数：242件

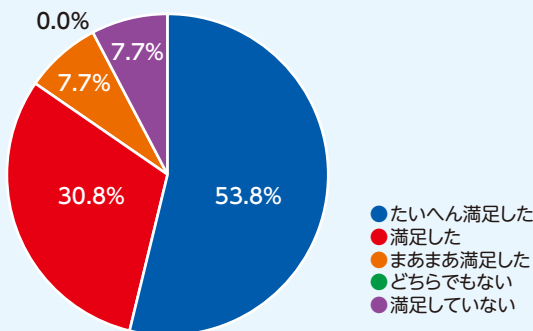


③プレイベント・ジオツアー

全体的に満足度が高かったが、申し込み方法が統一されていないなどの指摘もあった。

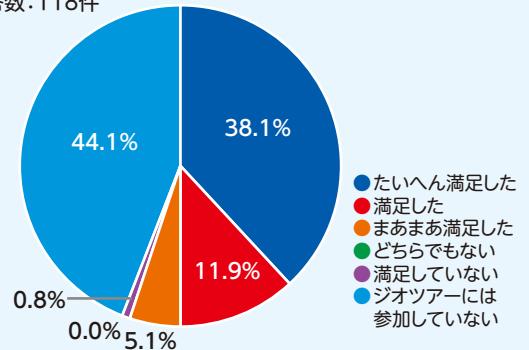
A プレイベントの満足度はどうでしたか。

対象：すべての参加者（プレイベントの参加者）
回答数：13件



B ジオツアーの満足度はどうでしたか。

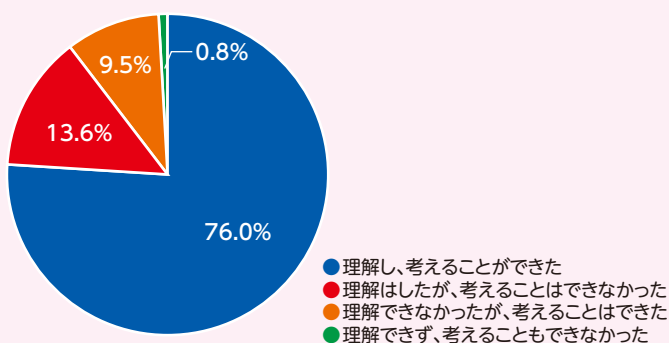
対象：すべての参加者（ジオツアーの参加者）
回答数：118件



④大会テーマ

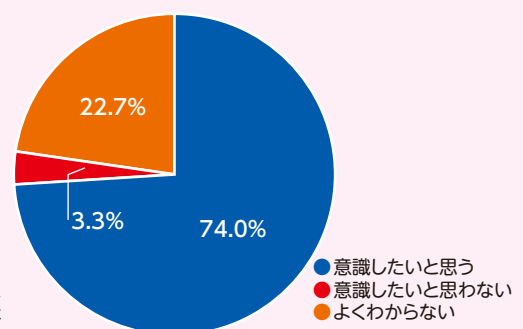
A 大会テーマ「今こそ行こう!ジオパーク」を理解し、地球環境や持続可能性、ジオパークの発展について考えることはできましたか。

対象：すべての参加者
回答数：242件



B 今後「今こそ行こう!ジオパーク」を意識しようと思いませんか。

対象：すべての参加者
回答数：242件



第13回日本ジオパーク全国大会in関東 大会宣言

全国大会の運営が地域ブロック制となった2017年から、日本ジオパーク地域は5地域増えて46地域となり、私たちの活動は「世界で最も活発なジオパークの国内ネットワーク」と評されるまでになった。

一方、活発な国内ネットワーク活動を象徴する全国大会の運営については、その規模の拡大から従来の形態の見直しを望む声も上がってきた。このことから、第13回日本ジオパーク全国大会in関東は、関東ブロック各地域が主体となって開催地の負担軽減を模索し、初の共同開催とした。

本大会は、関東大震災の発生から100年を数える節目の年にあつて、大地の変動リスクを各地域の自立的活動をもって軽減し、ネットワークで支え合う未来像を描いた。そしてその変動によって形づくられた地域資源を活用して持続可能な環境・経済・社会を築いていくために、全国からユース世代を含む参加者が集い、過去に学び、想像力を働かせて未来と対話し、今を生きている人々が納得して協働していく道を求めて互いに語り合い、討議を重ねた。

私たちは分科会報告に基づき、持続可能な地域づくりの担い手として、以下のことに重点を置いて活動を進めていくことをここに宣言する。

- 一. 私たちは、繰り返される自然災害が人間社会にもたらす被害を許容可能なレベルにまで減らしていくために、関係機関と協力して活動するとともに、それらの自然現象は豊かな水や美しい山並みなどを生み出し、そこから受ける恩恵もあることを理解した上で、様々な手法を工夫して自然現象の多面性を次世代へと伝え、真の意味で大地と人間が共生する持続可能な社会を目指していく。
- 一. 私たちは、地球に生きる一員として、海洋環境に対する責任ある行動を実践し、地域を越えて相互に影響を及ぼし合う関係性への意識と理解を高め、自ら海の豊かさを守るために行動する人を増やしていく。
- 一. 大地の遺産は、地質物品の販売およびその非持続可能な流通から守られなければならない。私たちは地域ごとに異なる状況を踏まえながら関係者と対話を深め、その最良な選択肢を求める。
- 一. 私たちは、ジオパークが「活動を行う地域のもの」であるという共通認識のもと、定期的な審査が活動の充実につながり持続可能なものとなるよう、地域特性や時代のニーズを見極めながら、日本ジオパーク委員会とともに活動の質的向上に取り組む。
- 一. 私たちは、観光事業者、ガイド団体などステークホルダーと協力して、自らが地域資源の持続可能な利用を能動的に体験できるツーリズムを推進する。
- 一. 地域に根付いている暮らしと文化は、地域住民が大地や生態系とつながりながら築き上げてきた知恵の表れである。私たちは科学と並行しながらそれらをたたえ、持続可能な地域社会の発展に生かしていく。
- 一. ジオパークでの学びは、人間に驚きや感動を与えるリアルな自然体験を出発点とする。感動から生まれる「もっと知りたい」を育むと、「守りたい」も芽生える。より多くの人々が地域と地球の自然や社会を知りたい、守りたいと思えるよう、私たちはこれからも学びを支えていく。
- 一. 私たちは、熱い気持ちを持って多様な意見に耳を傾け、相互理解の機会を増やし、すべての人がジオパークをやさしく利用できるよう、熱心にその利用環境の向上に取り組む。
- 一. 私たちは、市民団体や大学、研究機関などと連携して、生物と大地との相互作用への理解を促進し、生物多様性を支えている大地の環境保全を図っていく。

2023年10月29日

第13回日本ジオパーク全国大会in関東
実行委員会会長 越川 信一

実行委員会名簿

	役職	組織	職名	氏名
1	会長	銚子ジオパーク推進協議会 銚子市	会長 市長	越川 信一
2	副会長	秩父まるごとジオパーク推進協議会 秩父市	会長 市長	北堀 篤
3		日本ジオパークネットワーク	副理事長	桂 雄三
4	名誉顧問	日本ジオパークネットワーク 島原市	理事長 市長	古川 隆三郎
5		日本ジオパーク委員会	委員長	中田 節也
6	顧問	伊豆大島ジオパーク推進委員会 大島町	会長 町長	坂上 長一
7		ジオパーク下仁田協議会 下仁田町	会長 町長	原 秀男
8		箱根ジオパーク推進協議会 箱根町	会長 町長	勝俣 浩行
9		筑波山地域ジオパーク推進協議会 つくば市	会長 市長	五十嵐 立青
10		浅間山ジオパーク推進協議会 嬬恋村	会長 村長	熊川 榮
11		古関東深海盆ジオパーク推進協議会 大阪市立大学	会長 名誉教授	相川 信之
12		那須烏山ジオパーク構想推進協議会 那須烏山市	会長 市長	川俣 純子
13		委員	伊豆大島ジオパーク推進委員会	事務局長
14	ジオパーク下仁田協議会		専門員	関谷 友彦
15	秩父まるごとジオパーク推進協議会		事務局長	井上 正幸
16	箱根ジオパーク推進協議会		事務局長	関田 充生
17	銚子ジオパーク推進協議会		事務局長	赤塚 弘美
18	筑波山地域ジオパーク推進協議会		事務局員	亀澤 理映
19	浅間山ジオパーク推進協議会		事務局長	宮崎 貴
20	古関東深海盆ジオパーク推進協議会		副会長	山田 弥生
21	那須烏山ジオパーク構想推進協議会		事務局長	澤村 誠一

参加者数

●大会参加登録数／640名

ブロック名	ジオパーク&地名	中央会場 参加者数	サテライト 会場 参加者数	オンライン 参加者数	正・準
北海道	アポイ岳	13	1	0	正
	洞爺湖有珠山	7	0	1	正
	白滝	5	0	0	正
	三笠	0	4	0	正
	とかち鹿追	2	2	0	正
	十勝岳	12	1	0	正
	大雪山カムイミンタラ	3	0	0	準
東北	磐梯山	7	0	0	正
	男鹿半島・大湊	9	0	0	正
	八峰白神	6	1	0	正
	ゆざわ	7	2	0	正
	三陸	22	1	1	正
	栗駒山麓	4	3	0	正
	下北	22	11	1	正
	鳥海山・飛鳥	12	6	0	正
	蔵王	9	0	1	準
関東	伊豆大島	2	3	0	正
	下仁田	7	1	0	正
	秩父	0	1	0	正
	箱根	10	4	2	正
	銚子	24	0	0	正
	筑波山地域	9	3	1	正
	浅間山北麓	2	18	0	正
	古関東深海盆	1	0	0	準
	那須烏山	3	0	0	準
中部	糸魚川	16	0	0	正
	伊豆半島	10	3	0	正
	南アルプス(中央構造線エリア)	1	2	2	正
	恐竜渓谷ふくい勝山	5	2	0	正

ブロック名	ジオパーク&地名	中央会場 参加者数	サテライト 会場 参加者数	オンライン 参加者数	正・準
中部	白山手取川	12	2	0	正
	佐渡	9	18	0	正
	立山黒部	4	4	0	正
	苗場山麓	4	5	0	正
	飛騨山脈	0	0	0	準
	中四国 近畿	山陰海岸	24	6	0
室戸		11	1	0	正
隠岐		12	1	0	正
四国西予		8	2	0	正
南紀熊野		7	9	2	正
Mine 秋吉台		17	5	0	正
島根半島・宍道湖中海		5	2	0	正
萩		7	1	0	正
土佐清水		3	5	2	正
三好		9	5	0	準
九州	島原半島	8	3	0	正
	阿蘇	7	1	0	正
	霧島	3	10	0	正
	おおいた姫島	3	0	0	正
	おおいた豊後大野	9	1	0	正
	桜島・錦江湾	4	4	0	正
	三島村・鬼界カルデラ	3	0	0	正
	五島列島(下五島エリア)	9	0	1	正
	喜界島	5	0	0	準
その他		40	16	3	
合計		453	170	17	640

●大会のべ参加者数／4,009名

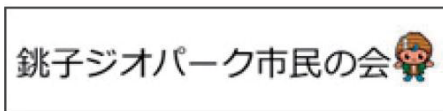
	大会登録者数	一般参加者
中央会場	1,084	2,121
サテライト会場	304	500





第13回日本ジオパーク全国大会in関東

協賛企業・団体



千葉銚子オフショアウインド合同会社

ヤマサ醤油株式会社

ヒゲタ醤油株式会社

銚子商工会議所

一般社団法人銚子市観光協会

箱根DMO(一般財団法人箱根町観光協会)

関東天然瓦斯開発株式会社

NPO法人日本地質汚染審査機構

株式会社ウインド・パワー・グループ

大会実行委員会



古関東深海盆
ジオパーク
構想